

形義論—日本語文法

Semantics—Japanese Grammar

高 橋 君 平

1 文法とは何か

文法を論ずる者にとって最初にして最大の難問は、文法とは何ぞや、何を文法というのか、ということである。

そもそも文法とは何かを究明することなくしては、文法は論じ得ないものと思われるのに、従来この問題を明快具体的に解明した文法書がないように思われる。

言語は意思を表現するものだが、文法とは言語の意味を表現するためのキマリである。

言語は地球のはてに住む未開蒙昧の少数民族にも成り立つし、個別言語については、知能未熟の三、四歳児も単語を知る限り、自由且つ無数に言語を話す事実により、言語の意味表現方式である文法は、誰にもすぐ理解体得できる程度に、簡単明快でしかも‘有限僅少’であると予断できる。もし哲学のように思惟し、論理学のように推理しなければならぬものなら、知能未熟の三、四歳児が無意識の裡に体得できるはずがないし、選択しなければならぬほど文法の数が多いなら、成人といえども瞬間に自由に言語を話すことができないはずである。

言語の意味を表現するのに、既知の単語 word を、どのように配列するか、その配列の方法が文法なのだから、文法は音声、音韻、語彙論、造語論、修辭論、文章論などと截然別個の範疇である。

‘本を読む’という意味を表わすためには、必ず‘本を読む’と言う、言わねば

ならない、幼稚園児も大学教授も。もし‘読む本を’とか‘読むを本’と言え、もう通じない。文法に合わないからである。すると‘本を読む’という配詞が、そのまま文法である。‘読む本を’が文義不通なのは、文法に合わないからであり、配詞が文法に合わない、文義不通で言語にならないということである。すなわち配詞が文法に合えば意味が通じて言語が成り立ち、文法に合わなければ、文義不通で言語にならない。換言すれば、文法は言語の成立を支えるものであり、文法を無視しては言語は成立しない。

しからば‘本を読む’とは一体どういう文法であるか、それを今度は究明しなければならないのだが、今までの文法論は、ここで行き詰まってしまうのではないか、方法を得ないからである。

「言語の正体というものは容易に掴み得ないものである。…限界のはっきりしない茫漠とした対象を捉えて、これを観察するということは、どういうことになるのか、その方法はどのようにしたらよいのか…」(昭和42年11月「講座日本語文法」第3冊 1頁)とは時枝誠記氏の疑惑である。

「その方法はどのようにしたらよいのか」、‘その方法’は文法論を決定づける最重要なキーポイントと考えられるが、僕らは僕らなりにその方法を見つけたのである。

まず文 (sentence) という言語の単位を設定する。次に文の構造形態と意義との対応を見るのである。

これは長い間漢語文法を手がけている間に自然に浮びあがってきた方法なのである。

‘本を読む’という文法は‘本を’という賓語の次に‘読む’という他動詞を置くいわゆる‘賓動構造’という文法である。

動詞のはたらきの施及する対象を賓語(客語—目的語)という。

いまこの‘賓動’という構造式に別の単語を代入してみると、次のようになる。

(| 符は賓語と他動詞を分ける。符号はむろん読むときは無視する)

表 I 賓動形の句例

賓 語	他動詞		
○水(お茶、酒、牛乳、…)を	のむ		
○本(小説、手紙、…)を	よむ(書く、…)		
○ご飯(すし、ラーメン、菓子、果物、…、パン、…)	たべる(作る、買う、売る、…)		
○家を	建てる(借りる、造る、売る、買う、こわす、焼く、…)		
○彼女と	デートする(結婚する、喧嘩する、旅行する、…)		
○算数(英語、歴史、…)を	勉強する(学ぶ、習う、教える、試験する、…)		
○学校(塾、市場、公園、東京、中国、南極、月、…)へ(から)	行く(かえる)		
○野菜を	買う(売る、作る、あげる、貰う、煮る、漬ける、…)		
○田畑を	耕す ○犬(猫、…)を	飼う(可愛がる、殺す、追う、…)	
○ホテルに	泊る(休む) ○富士に	登る ○田舎に	住む

.....

双賓動詞のもの(前賓、後賓に定位はない。・点で前後を分ける)

- 君に・本を | やる(本を・君に | やる) ○僕に・本を | くれる
- 東京から(へ)・田舎に(から) | 帰る
- 人に(から)・金を | 貸す(借りる) ○幼児を・保育所に | 預ける

.....

情意動詞のもの(用言のある句文を賓語にとる。体言賓語にも用いる)

- 中国へ行きたいと | 思う(希望する、夢みる、言う、考える、…)
- 入試に合格するように | 祈る(願う、勉強する、頑張る、努力する、…)
- 彼が失敗したことを | 知る(通知する、確認する、…)

○故郷を | 思う(体言賓語) …

.....

注意 動詞の終止形はウ段。 | ・左側のカナは賓格助詞(賓助)

このように相当語彙のある限り、同型文を無数に増殖できる。こういう性能

を文法の生成性 (generative) という。生成性は文法固有の性能であり、生成性でないものは文法というに値しない。

文法は生成性なるがゆえに‘有限僅少’の規則で‘無限多’の言語表現に耐えるのである。

2 諸家の文法説

(1) N. チョムスキー=勇康雄訳「文法の構造」6頁は「文法は自律的なもので、意味とは別もの…」と言うが「言語の意味の表达方式が文法である」とする僕らから見れば、彼は出発点ですでに誤っているのではないか。

彼自身もその誤りを反省したのであろう、15年後の「生成文法の意味論研究」(チョムスキー=安井稔訳著) 77頁では「個別言語の文法とは、大約その言語の音声と意味との対応の仕方を表わす規則の体系である」と意味をとり入れたことは、刮目すべき進歩と思われるが、なお音声を手放すことができない。

どんな言語も必ず音声によって発話される。音声によることなくしては、言語は始めから成り立たない。しかしすでに音声によって成り立った言語の意味表現の方式が文法なのだから、文法論はもはや音声とは無関係である。空気がないければ人間は始めから存在し得ないのだから、人間生活の諸相を論ずる場合に空気の有無を問うのが無意味であるのと同様である。

ところが、欧米の言語学者は、イエスペルセン、ソシュール、… …、チョムスキーにしても、その文法論に必ず音声を導入するのは、言語学と文法論とを混同するものと言わねばならない。言語学と混同して音声をとり入れる限り、文法は到底正確には把握できないだろう。

日本の童謡

主 語

述 語

桃から生まれた桃太郎、気はやさしくて、力もち(2表語から成る連述文)

(a) この文の一言一語の音声を、どのように高低、強弱、長短に変化しても、また曲をつけて歌っても、意味にはいかなる変化も起きない事実により、音声は、イントネーション、ストレスなどを含めて、意味には全く無関係であることがわかる。

(b) ‘桃から太郎が生まれた’というようなことは、自然科学や論理学では、始めから認められないし、幼稚園児の知恵にさえ合わないだろう。にもかかわらず、言語としては不都合なく成り立つ事実により、言語は自然科学、論理学、哲学と無縁であることがわかるだろう。

(2) 松村明編「日本文法大辞典」（昭和46年11月 明治書院）746頁：①狭義には文の構成方式、文の構造と成立に関する法則の体系。…が事実上体系的法則が立てられているとはいえず、理論上も問題がある。…②法則の体系といっても、具体的には体系に関する論述であり、…発見され組織されない限り、法則は人間の認識以前のもので法則とは言えないと考えられる…極く一般的に言えば、対象単位を設定し、各単位体の相互関係や構成を明らかにすること…各単位体の形態・意味・機能の側面にわたって追求すること…

(3) 昭和51年12月 岩波講座 日本語 6 文法 I 3頁：——文法とは、文を中心とする言語単位の構成法則の骨組と仮定しよう。…文法の定義は現在も広狭深淺さまざまと言わざるを得ない。… 6頁：——意味表現のために文法があり、意味表現の骨組みとして文法がある。…（宮地裕）

以上諸家の文法の定義は、どれも具体性を欠くばかりでなく、いろいろ多様で、定説を帰一することができないものようである。

3 文 (sentence) の構成成分

文とは何か

(1) 松村「文法辞典」730頁：文——何かの事柄について、統一をつけつつ、完結したものとして述べるもの。言語単位の一つ。言語が集まってある完結した意味をもつ一まとまりとなったもの。ただし文の定義は多種多様で定まらない。

(2) 岩波講座 日本語 6 文法 I 35頁：——文の定義というのは非常な難問で、フリーズによれば二百以上の定義があるというが、そのいずれもが定説

であり得ないというのが実情である。… 37頁：時枝は文の性質を規定する条件として ①具体的思想の表現であること ②統一性があること ③完結性があること。の3点をあげた（北原保雄）——（案：時枝説は妥当と思われるが、可惜、具体性を欠く）

このように文法や文の定義が多種多様なのは、やはり文法論が世界的規模において不毛地帯として残されている反証であろう。

形義文法論の方法——文の定義

およそ言語は突然または偶然に空間に発生するものではない。必ず何かについてか誰かに向って発せられる。僕らはその‘何か’‘誰か’を主語といい、主語について述べられる言語を述語という——主語・述語の定義。

すると主語と述語がそろうと意味がまとまるはずである。

形態上主語と述語が具備し、意味が貫通完結する。そういう一区切りの言語単位を文（sentence、漢語では句）と呼ぶ。文は言語の最小の単位である。

僕らは所与の言語については、必ず形態上主語と述語がそろっているか否かを見ると同時に、必ず意義がよく通り、よくまとまっているか否かを問う。文義がまとまっていれば、主語と述語がそろっている証左であり、主語と述語が具備すれば文義が貫通完結するはずである。換言すれば、ある特定の意味を表わすためには、それに相応する文の構造形態——主語と述語の配分方式によらねばならず、逆に文の特定の構造形態は、それに相応する意味を表わす、あるいは意味しか表わさない、ということである。当然僕らの文法には、意識・判断・主題・題目、…、深層構造・表層構造などという用語は出てこない。

このように規定された文——主語と述語の配合による構造形態と意義とが相対応する言語単位——を文法の基準に立て、あらゆる文法は、文の構造形態の裡で定まるとするのだから、内外のあらゆる文法論——橋本、山田、時枝、…、現在諸家、漢語では黎錦熙、王力、呂叔湘、高名凱、周法高、張志公、朱德熙、…、欧米のいわゆる生成変形文法…などと区別して、自らその文法を形義論と呼ぶのである。（20年前は形体論とか形態論と呼んだが、これはチ

ヨムスキーの Syntactic structure と誤解されのを恐れる)

文の主要成分(主要語)

形態上主語と述語が具備し、意義が貫通完結する一区切りの言語が文であるから、文の構成成分は主語と述語にほかならぬ。しかし実際の自然言語では、主語と述語だけで構成されるものは極めて少なく、なにがしかいろいろ修飾語が添加されるのが通例である。それを付加成分(付加語)という。付加語は主要語を複雑多様に修飾するが、文の構成成立には全く関与しないものである。

文の構成成分を必須不可欠 (obligatory) の主要語と、文の成立には関与しない加否自在 (optional) の付加語とに分け、主要語である主語と述語との構造形態を見て基本文型を抽出し、付加語は別のレベルで考究するという方法は形義論が独自に開発したものであるが、この方法によることなくしては、おそらく文型の抽出は不可能になるのではないか。

しからば日本語には主語と述語の配合には、どういう構造形態がいくつあるか、それを今度は全部探究抽出しなければならないのだが、主要語の表現を担当するものは、名詞・形容詞・動詞と賓語の四者であるから、まずこれについて解説しておかねばならない。

主要語の表現を担当する詞品

詞——いわゆる品詞で、名詞・形容詞・動詞・助動詞、それから副詞・接統詞・各種助詞の類。

語——複数の詞が集まって一つのまとまりをなすもの——主語・述語・賓語の類。

1 名 詞 あらゆる人・物・事の名

ひと 物 の こと 源義経 三木総理 先生 校長 … 桶 下駄 はたき ごみ … 腰 足 毛 … 犬 虎 鳥 蚤 … 本 紙 ペン 光音 テレビ タバコ … 雨 風 … 大根 サンマ … 風呂 鍋 … 哲学 落語 … 電車 橋 ゲバ棒 テニス … イラン タイ国 東京

田舎 アパート 二階 トイレ 国連 … シルクロード … 論著の題
目——「吾輩は猫である」「徒然草」 … … …

数 詞 ^{イチ}一 ^ニ二 ^{サン}三 ^シ四 ^ゴ五 ^{ロク}六 ^{シチ}七 ^{ハチ}八 ^ク九 ^{ジュウ}十 十一 二十三 …

五十八 ^{ヒヤク}百 ^{ヨンヒヤク}四百 ^{セン}五千 ^{マン}二万 ^{オク}億 ^{チヨウ}兆 …

半分 三倍 $\frac{1}{2}$ 75% …

^{ひと}一つ ^{ふた}二つ ^{みつ}三つ ^{よつ}四つ ^{いつ}五つ ^{むつ}六つ ^{なな}七つ ^{やつ}八つ ^{ここの}九つ ^{とう}十 ^{じゅういち}十一

^に十二 …

量 詞 数えるものの性質によって異なる（～の～、接続詞）

酒一升 一升の酒 米三俵 十キロ 五尺の布 キログラム ヘクタール
一メートル 三インチ コップ一杯のウィスキー 一碗の飯 …

木造瓦葺 一棟 本五冊 一学級 一組の団体 …

^{ナンニン}何人 ^{イクニン}幾人 … ^{ひとり}一人 ^{ふたり}二人 ^{さんにん}三人 ^{よにん}四人 ^{ごにん}五人 ^{ろくにん}六人 ^{しちにん}七人 ^{はちにん}八人

^{くにん}九人 ^{じゅうにん}十人 ^{じゅういちにん}十一人 ^{ににん}十二人 ^{さんにん}十三人 …

代 詞 ‘こそあど’を用いる

事・物 場 所 他称代詞 複数

こ れ こ こ この人(方) この人々(方がた一敬)

そ れ そ こ その人 } その人々 }

あ れ あそこ あの人 } かれ あの人々 } かれら

ど れ ど こ どの人 だれ(どなた一敬)——単複両用

人称代詞

自称 わた[く]し わた[く]したち(ども)

対称 あなた あなたがた 皆さん

他称 本名を称するか‘こそあど’による人称代詞を用いる

近來は…彼(カレ) 彼女(カノジョ)なども用いる

疑問・不定には 誰(タレ) 誰方(ドナタ)

我 你 他 } のように一字で表わす本字がないのは大きな欠点。国語審議会
I you he } あたりで考えてみてはどうだろう。

外国人は習熟するまでは 君(キミ) 僕(ボク)は用いない方がいい。

以上名詞は‘活用’がないが、語尾の‘活用’する用言（形容詞、動詞、助動詞）に対して体言という。最もよく文の主語および賓語になる。

動詞のはたらきの施及する対象を賓語という。（客語、目的語）

2 形容詞

人・物・事の性質状態を表わす詞語を形容詞という。通例体言の前に直接して連体修飾語（連体語—体修）となるが、文の述語となるときは、動詞述語と区別して**表語**という。

述語 || 符は主・述を分ける

連体語～体言（名詞） ～符の前。主語 || 表語 … 主表文

(1) い音で終止する形容詞。相対表現の詞が多い

高い 低い 大きい 小さい … 好い 悪い 厚い 薄い …
うまい まずい 美しい 醜い あらい 細い 太い 暑い 寒い …
赤い 青い 白い 可愛い 憎らしい … 男らしい 女らしい
めめしい … きれい きたない … めずらしい おとなしい …
ずうずうしい そそっかしい あわただしい 騒々しい 痛々しい
きびしい さびしい … せせっこましい だだっ広い …

	主語	表語	
○高い～山	あの～山は	高い	高く+ない
美しい～花	この～花は	美しい	美しく+ない

} +符の右は助動詞

いま助動詞につづくために、高く、美しく、と語尾が変化するのは活用。

終止音イがクに活用変化すれば、形容詞は中止形または連用形となり、そのまま全部、副詞—連用修飾語（用修）となる。ゝ符の前。

○山は || 高くゝそびえる ○花は || 美しくゝ咲いた

○山は高く、海は深い。… 2 主表文からなる複文

終止音イがサに変れば程度を表わす名詞となる—→高さ 青さ 美しさ
そそっかしさ 大きさ 厚さ …

(2) か音で終止する形容動詞。語尾は活用しない

静か 愚か なめらか おだやか …

表語述語になるときは、そのままでは不安定なので、一般に‘だ’（である、です）を添加する。○海は || 静かだ ○僕は || おろかで+ある

名詞——さ音を接尾すれば程度を表わす名詞になる→静かさ（静けさ）

なだらかさ

連体語——体修の符号はㇿ→○静かなㇿ海 ○なめらかなㇿ苔

連用語——用修の符号はㇿ→○静かにㇿ歩く ○なめらかにㇿ滑る

(3) り音で終止する形容詞。活用しない

うんざり がっかり ふんわり しょんぼり …

表語述語になるときは、一般に‘する’または稀に‘だ’を添加する。

○うんざり+する(だ) がっかりする しょんぼりする …

連用語——副助詞‘して’（‘する’の連用形）を介して用修となる。ㇿ符の前。

○うんざり、がっかり/してㇿうずくまる /の後は副助詞

そのままで用修となるものもある：○しょんぼり[と]立つ ふんわり[と]

浮ぶ

主語 述語

形容詞は主語をうけて‘主表文’を構成する：象は || 大きい(表語)

主表文のままで表語となるものも少なくない…象は || 鼻が：長い
(小主) (表語)

ほかに人・物・事の性状を描写する名詞(漢語が多い)・動詞・その他の詞語も表語になるものがある。

○やあ！これは || 驚いた(困った、たいしたものだ、だめだ、…)

○おお、これは || いける(まいった、お手あげだ、…)

あの子は || できる(できない、優秀[だ]、聡明、愚鈍、拙劣、阿呆、馬鹿、…)

○原書を読むのは || 勿論だ(渡辺「国語構文論」331頁) (いうまでもない、当然だ、…)

○このナイフは || よくㇿ切れる(金田一4) } (金田一春彦編「日本語動詞のアスペクト」の略)
○親爺は || なかなかㇿ話せる(同上)

この2例は助動詞の添加により、動詞が表態性になったものだが、助動詞は付加語だから暫く度外し、これらを主動文とみることも可。

3 動 詞

具象抽象を問わず、あらゆる人・物・事の動作・行為、官能・心情のはたらき、さらには存在・所有・因果関係、自然現象を表わす詞語を動詞という。

動詞には、自動詞・他動詞・系詞動詞の3種がある。

動詞はすべて終止形はウ段。動詞が後続の助動詞につづくために、語尾が変化するのを‘活用’という。活用は形容詞、助動詞にも起り、それぞれ簡単なキマリがあるが、小学生も誤ることはない。誤れば正常な言語にならないから。

動詞のはたらきの施及する対象を賓語(目的語)という。

一般に他動詞は賓語を伴い、自動詞は賓語をとらないが、動詞の自・他動は必ずしも明確でない。死ぬ(自)、殺す(他)のように、はっきりするものもあるが、日常の動作・行為を表わすものには両動するものがたくさんあるから、賓語を伴うものを他動詞、そうでないものを自動詞とするほかはないだろう。系詞は必ず賓語を伴う。諸家は系詞動詞を立てない。

構造分析の符号

|| 主語と述語を分ける。| 述語中で賓語と動詞を分ける

(: 述語中で小主と動詞を分ける)

符号は文の構造形態を明確にするために臨時に設けたものだから、例文を読むときは、全部無視すべきは言うまでもない。

(1) 自動詞 (+符は動詞と助動詞を分ける)

賓語を必要とせず、それだけで意味のまとまるものを自動詞という。主語

を承けて‘主動文’を構成する。主語 || ^{述語}自動詞
主語 述語

○私は || 歩く(坐る、立つ、寝る、帰る、遊ぶ、怒る、ころぶ、泣く、笑う、…
寝て+いる、立た+ない、ころん+だ、…)

これらはみな自動詞だが

- 道 を | 歩く } などと言えば、今度は他動と言わざるを得ない、賓語を伴う
 畳 に | 坐る } から。賓語の有無によって自・他動が定まるとは、文の構造
 家 に | 帰る } 形態における役位によって定まる、ということにほかならぬ。
 教壇に | 立つ } ……

どんな瑣細な文法も、文の構造形態を見ないと定めようがないというのが
 形義論独自の方法。

主語	自動詞		賓語	他動詞
○病 が	癒 る	……	病 を	癒 す
柿の実が	落ちる	……	柿の実を	落とす
眼 が	覚める	……	眼 を	覚ます
火 が	燃える(消える)……		火 を	燃やす(消す)
電灯が	つ く(消える)……		電灯を	つける
人 が	死 ぬ		人 を	殺 す
子どもが	生まれる		子 を	生 む

‘眼が覚める’‘眼を覚ます’は一つの連合動詞と見る方がより妥当かも知れ
 ない、そうすれば、どちらも‘目覚める’意味の自動詞となる。

○彼は || 眼が覚めた 彼は || 眼を覚ました …(主動文)

○彼は大学を卒業すると、結婚した …(2連述の単文)

結婚する、離婚する、などはそれだけで意味が通るから自動詞。しかし

○彼女と | 結婚する 女房を | 離婚する、なら賓語があるから他動詞。

○‘卒業する’は賓語を要求する(賓語がないと意味が完通しない)から自動詞で
 はあり得ない。一何を | 卒業したのか? 大学、丁稚見習を | 卒業した

動詞‘する’(しない)は熟語や外来語(漢語は古い外来語)に後付して、無数
 に連合動詞を構成する:

○勉強[を]する 修業する 卒業する 結婚する 努力する 思索する
 哲学する … 食事する 旅行する 喧嘩する … 人まねする
 ままごとする じゃんけんする …… デートする アレンジする …
 テストする ゴルフする プランコする 野球する …

これらは自動詞用例がより多いと思うが、賓語をとれば、他動詞と認めざるを得ない——○英語を | 勉強する 彼と | ジャンケンする …

○高い鼻をする 丸顔をする 紳士然とする 坊ちゃん坊ちゃんする

しんねりむっとりする（金田一7） …などは

○えらそうにする うっとりする ほればばする さばさばする …などとともに連合動詞と見るよりも、性状描写の‘連合表語’（形容詞性）とする方がより妥当とすれば、これらを述語とする文は‘主動文’ではなく、‘主表文’に類属することになる。こういう点に分類のむずかしさがあるが、実はどちらでもいいのである。所詮この2類をはみ出ることはないのだから。

○墨を | する ゴマを | する 人の財布を | する …の‘する’は始めから他動詞で連合動詞の‘～する’とはもとより異なる。

‘ある’‘ない’は存在・所有を表わす自動詞だが、存在は場所主語の場合が多い。生物の存在には‘ある’より‘いる’を多く用いる。

ある いる ない は助動詞（＋符の後）としてもよく用いられる。

述語

主語

（小主）

○ここに || 机が：ある（ない） } 3例とも‘処動文’…いま存在義。ここに || 机
彼は || 金が：ある } が：おかれる、といえは受動形の‘処動文’と
彼の家は || 金が：ある } いうことになる。
ここに || 机を | おく（おか＋ない） …賓動形の‘処動文’

○彼は || 金を | もって＋いる } 所有義の‘賓動文’
彼の家は || 金を | もって＋いる } ＋符の後は助動詞（以下同断）

○おれには || お前という強いㄥ味方が：あった（金田一19） …‘処動文’
ㄥ符の前は連体修飾語（連体語一体修）

○この椅子は || 先刻からㄥここに | あった（金田一21） …‘賓動文’

‘にある’は場所を賓語にとっているから他動詞。ㄥ符の前は連用語（用修）。

○二階には || お客さんが：いる }
○ここに[は] || 机が：おいて＋ある（ない） } 3例とも‘処動文’
○机の上に || 猫が：寝て＋いる（いない） }
○彼は || いまㄥ本を | 読んで＋いる …‘賓動文’

（‘文型’は文法の根幹だから別項で詳論します）

それから重要なことは、一つの述語には必ず一つの用言しか表われない、二つの用言が並ぶことはないということ。一述語に複数用言が並ぶように見えるのは、実は前のものが主要用言であり、後につづくものは助動詞である、ということに注意したい。助動詞は付加語で、文の成立には関係はない。

（このことは付加成分の項で詳述します）

○彼女は || 美しく、[そのうえ] 上品だ。… ‘美しい’ と ‘上品だ’ と 2 つの表語述語から成る ‘連述文’ で、‘単述文’ ではない。

○山は || 高く、海は || 深い。… 2 つの主表文から成る複文、単文ではない。

動詞述語においても同じ：（動詞語尾の変るのは活用）

○…まだ | 読んで + いまい（金田—21） … ‘読む’ と ‘いまい’ と 2 動詞が並んでいるのではなく、主要動詞は ‘よむ’ で ‘いまい’ はそれにつづく助動詞。

○彼は || 部屋へ | 入って + 来る。… 部屋から | 出て + 行く。

‘入る’ ‘出る’ が主要動詞であり、‘来る’ ‘行く’ はいま ‘こっちへ近づく’、‘向うへ遠ざかる’ いわゆる方向を示す助動詞。併せて一連動とするも可。

○雨が || 降り + 出す。風が || 吹き + 出す。… ‘出す’ は降り始める（開始）意味の助動詞。または併せて一連合動詞。

○この子も || ～… 段々 | 出来て + 来た（金田—20） 段々出来るようになった

○富士山が || はっきり | 見えて + 来た（同上） … 段々見えるようになった

○物もらいが || 出来て + しまった（同上） … 3 例の助動詞は時間的経過過程を示す（後の ‘出来る’ は ‘発生する’ 意味）

○では何時にお会いし + ましょう（同19） + 符の右は丁寧助動詞

これらの例文で、仮に + 符の前の主要動詞を度外して見て下さい。文義不通となり、文は成り立たないはずで、よって助動詞が付加成分であることが確認される。

（2）他動詞

他動詞は賓語を伴って ‘賓動文’ を構成する

（表Ⅰを参照されたい）

| 符は賓語と動詞を分ける

述語
主語 || 賓語 | 他動詞

○私は || 本を | 読む 飯を | 食う(たべる) 水を | 飲む …

学校に | 行く 車に | 乗る 中国へ | 行く …

○本は || 机の上に | ある

(A) 双賓動詞(双動) 2つの賓語を伴う動詞。多くは人と物だが、日本語では、前賓・後賓に定位はない。前にあるから前賓、後にあるから後賓と言え、小学生にもわかる、間接賓語・直接賓語というべきでない。

符号・点で前後を分ける(| ・ の左の仮名は賓格助詞)

○君に・本一冊 | やる 母に・手紙を | 出す

○この本を・君に | あげます 手紙を・母に | 出さなかった

○疑問の点を・先生に | くりかえし質問する。この前は用修

むろん単賓にも用いられる… ○先生に | 質問する これを | やるよ

(B) 情意動詞(情動) 情意や官能のはたらきは、往々用言のある長い句文を賓語にとるものがある。用言を含む句文を賓語とするものを情動という。

全文の主要用言と紛れぬよう注意する。

○ありがたいと | 願う(金田-18) …と、賓助

○以上しゃべって来たことを | 約言すれば…(同20) …を、賓助

○人々は || 彼が無双の勇士だと | 賞賛した。…と、賓助

賓系形の賓語

処動形の賓語

○リンゴの落ちるのを見てトニュートンは || 地球に引力があることを | 発見したと：いう。…‘いう’は情動、：符以左の全文がその賓語。と、賓助。

用修はよく文首に置かれるし、長い賓語は往々主語の前に倒置される。

○金をためて外国へ留学しようと | 彼は || 考えた(思う、言う、話す、計画する…)

2 賓動述語のある賓語

情意動詞

情動とてむろん単語を賓語にとることができる：

○故郷を | 思う 中国語を | 話す 文法の方法を | 見つけた

賓格助詞について

他動詞は必ず賓語をうけるが、その賓助は普通「を・に・へ・と・から」などで(参照表 I) あるが、動詞が助動詞の添加によって、可能や願望になると、賓助も‘が’に変わるということを注意したい。

	可能性	願望
○Aは 本を 読む …	本が 読める	…(を)が 読みたい
山を 見る	山が 見える	(を)が 見たい
音を きく	音が きこえる	(を)が ききたい
飯を たべる	飯が たべれる	(を)が たべたい
水を 飲む	水が 飲める	(を)が 飲みたい
歌を うたう	歌が うたえる	(を)が うたいたい
英語を 喋る	英語が 喋れる	(を)が 話したい
田を 作る	田が 作れない(田中414)	が 作りたい

これらのがは限定特指の賓助で、主助(主格助詞)ではない。

○おできが || できる 恋人が できる(金田一9)などは

○子どもが できる(生まれる)、人が死ぬ、などと同様、人工作為でなく、自然発生的だから、○雨が ふる、風が 吹く、など自然現象を表わすものと同類の自動詞であろう。

○このナイフは || よく | 切れる ○親爺は || なかなか | 話せる(金田一9)などは切る、話す、が動詞だから、‘主動文’に入れてもいいが、‘切れる’‘話せる’は、性状描写だから、‘主表文’に類入する方が、合法かも知れない。

○延びる 縮まる 清む 濁る(金田一25)なども上例同様、自動詞でなければ表語。しかし

○…ヲ | 延ばす 縮める 清ます 濁す、と言えはむろん他動詞。

要するに、賓語の有無によって自・他動が定まる。

(3) 系詞動詞(繫=系)

主語と賓語が同等または同格であることを表わす特殊な動詞。系詞と略称する。‘賓系文’を構成する。

文法上主・賓を倒置（入れ替え）できる。

（| 符は賓語と系詞を分ける）

述語
主語 || 賓語 | 系詞

自動詞・他動詞と対等に系詞動詞を立てた文法書を見たことがないが、これを立てないと文の基本文型を漏れなく抽出網羅できない。諸家は基本文型に関心がないようだが、文型を全部抽出しない限り文法体系は到底完整されないだろう。

○吾輩は || 猫で | ある（| だ、である、…でない）（金田—9）

吾輩と猫は同等——〔漱石の〕猫は || 吾輩で | ある

○Aは || 歌手に | なる（ならない、なった、ならなかった）

○Bは || 郷里で | 教師を | やる（する、しない、していない、したことがない、…）

○あの子は || 一寸も | 親に | 似ない（金田—16） | の前は用修

○この花は || 牡丹と | いう（呼ぶ、名づける、…で | ある）

○これは（が） || 文法の方法で | ある …（が）背景を意識した限定特指の主助

○これを || 文法の方法と | いう。…文語調の系賓文では‘を’を主格助詞（主助）にとることができる。

○私は（が） || 高橋という者 | です（だ、である、であります）（が）なら限定

○2 に2を足すと || 4 に | なる（4である、に等しい、と同じ）

○3・3が || 9。…は後部に系詞を略した無主の‘賓系文’である。が構造形態を見たままに‘主表文’に類入することでもできるだろう。

系詞の種類は多くはないが、‘である’系詞は、自動詞、他動詞に劣らずよく用いられる。

3種の‘ある’動詞——がある ニある デある

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| ①あそこに 机が：ある…がある（がない）…自動詞 | } 3種を区別するために、
仮に賓助を頭接した。 |
| ②本は 机の上に ある…ニある（にない）…他動詞 | |
| ③吾輩は 猫で ある …デある（でない）…系詞動詞 | |

①②の‘ある’は事・物について、‘いる’は生物（人など）について、その存在を表わす動詞だが往々混用される。——ある所に爺さんと婆さんがありました。‘ある’‘いる’‘ない’は助動詞としてもよく用いられるが、その用例は

‘(1)自動詞’の項にすでに挙げたから、ここには重複しない。

以上名詞・形容詞・動詞の3品が、この3品だけが、文の主要成分(主要語)——主語・述語(表語・賓語・動詞)——の表現を担当するのである。

4 文の主要成分と文型——基本構造

形態上主語と述語が具備し、意義が貫通完結する一区切りの言語が文であるから、文の構成成分は主語と述語にほかならぬ。しかし実際の自然言語では主語と述語だけで構成されるものは極めて少なく、なにがしか、いろいろ修飾語が添加されるのが通例である。それを付加成分(付加語)という。しかし付加語は文の構成成立には全く関与しないものである。だから形義論は、‘文’については主要語——主語・述語だけの配合の仕方すなわち構造形態を見て文型を定め、付加語は別のレベルで考究するのである。

一独立文について主要語である主語と述語との構造形態を見て文型を抽出し、付加語は別のレベルで考究するという方法は形義論が独自に開発したものであるが、この方法によることなくしてはおそらく基本文型の抽出は不可能になるであろう。

しからは日本語では、主語と述語の配合にはどういう構造形態がいくつあるか、それを今度は全部探究抽出しなければならない。

主語は大約名詞(代名詞を含む)または名詞語で、一般に文首に現われ、助詞ハ・ガで承けるので紛れはないから暫く措く。述語には、形容詞だけのもの、自動詞だけのもの、賓語と系詞動詞のもの、賓語と他動詞のもの、それから述語は賓動形だが主語が場所(または稀に、時間)という特殊なものがあることがわかった。いまそれを整理すると次のようになる：

文の構造を明確にするために形義論は次の分析符号を用いる：

主要成分… { || 主語と述語を分ける(小主には：)
| 述語中で賓語と動詞を分ける

(1)述語が形容詞性表語のもの …主表文… 主語 || 表語

- (2)述語が自動詞だけのもの …主動文… 主語 || 自動詞
 (3)述語が賓語と系詞動詞のもの …賓系文… 主語 || 賓語 | 系詞
 (4)述語が賓語と他動詞のもの …賓動文… 主語 || 賓語 | 他動詞
 (5)述語は賓語と動詞の配合だが、主語が
 場所(稀に時間)という特殊なもの …処動文… 主語 $\left(\begin{smallmatrix} \text{処} \\ \cdot \\ \text{時} \end{smallmatrix}\right)$ || 賓語 | 動詞

主語・述語の一回配合である単述文としては、この5型しか考えられない。
 ほかに同一主語の下に複数述語が配合する複述文が2型ある。

- (6)通述文 兼語を中軸として前述と後述が配
 合するもの。〔兼語〕は文面には重複しない。 主語 || 前述〔兼語〕後述
 (7)連述文 同一主語の下に(1)～(6)文型のうちの二、三の述語が並列するもの
 … 主語 || 述語、述語、一、一、…、

日本語の単文類型はこれ以外は考えられない。よって、以上7型を基本構造と呼ぶ。本篇の冒頭で、文法は簡単明快にして‘有限僅少’と言ったが

文型は僅かに単述5、複述2、計7…有限僅少

各文型とも || | 2符で分析できる …簡単明快

さればこそ三、四歳児も、無意識の裡に自然に体得するのである。文法は生成性 generative であるから、知る限りの別の単語を駆使し更に各種多様の付加語を添加すれば、十分に‘無限多’の言語表現に耐えるのである。

以上のほか別に使役・受身の表現形式があるのだが、日本語では使役・受身は助動詞の添加以外に方法がない。しかし助動詞は付加語であり、あらゆる用言に添着して、基本文型の述語を全部、使役または受身に変形できる性質のものゆえ、これを基本構造と対等の文型に立てることは許されない。よって基本文型のワク外に使動式・受動式の2変式を立て、最後部に付記するにとどめるほかない。

表 II 主要成分の配合形態——基本構造（文型）

符号は文の構造形態を明確にするために、臨時に定めたもので、もとより原文にはないのだから、読むときは一切無視度外する。

（例文には往々付加語の添加されたものがある）

(1) 主表文 主語と表語の配合

述語

形容詞性述語は動詞述語と区別して表語という 主語 || 表語

|| : 左の助詞は主格助詞(主助)

主語 述語

①花は || 美しい

○海は || 静くだ

…形容動詞には、だ(である)を後付して終止する

○山は || 高い

○雪は || 白い(田中388) (「岩波講座日本語7 文法II」の

○彼は || 小柄だ

○言わぬが || 花(同366) 略、以下同じ)

○象は || 大きい

○万一ト失敗すると || 大変だ(同421)

この文型には述語が‘主表’形のものが多い。

述 語

(小主) (表語)

○象は || 鼻が：長い(三上16, 「象は鼻が長い」の略)… : は小主と用言を分ける

○東京は || 人口が：多い 文中の部分(いま述語)に現われる主語を小主とい

○京都は || 秋が：いい うが、その助詞はがであることに注意。

‘鼻が長い’ ‘人口が多い’ ‘秋がいい’ は形態上主語と述語の具備した主表文だが、これだけでは文義が完通しないから、一つの独立文とはなり得ない。大主語(全文の主語)を欠くからである。よって次の文法が導かれる：

ある人・物・事の部分(鼻)とか属性(人口、秋)を小主語とする主述構造は独立文とはなり得ず、小主の属する大主語の述語にしかなり得ない。この文法は主表文に最もよく現われるが、他の文型にも適用される。

○彼は || 背が：高い (走るのが：早い、頭が：わるい、字が：上手だ、柔道が

: 強い、作文が：下手、気が：やさしい、給与が：安い(高い) …

数学が：できる、英語が：うまい …

○桃太郎は || 気は：やさしくて、力もち(田中416) … 2 表語の連述文

○あの映画 || くだらない+あったらありゃしない(同389)

(2) 主動文 主語と自動詞の配合

主語 || 自動詞

主語 述語 || 左の助詞はすべて主格助詞(主助)

○木の葉が || 落ちる ○暑すぎるせいかな葉が || しおれて+きた(田中415)

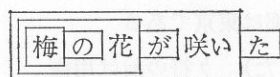
○太郎は || 立ち+あがる(立つ、坐る、歩く、…、勉強する、遊ぶ、…)

○家は || 焼け+なかった(言語3—21) … (動詞+助動詞)

○梅の花が || 咲いた(時枝) 昭和42年11月明治書院発行「講座日本語の文法」

(略—青講) 2—133 頁…『入子型構造式：文は詞と辞との結合としてのまとまりをもつ句の連続が、完結することによって成立する、と言うことができる。まとまりをつけつつ完結させる——これが文の成立の条件なのである

梅の | 花が | 咲い | た この例文をもう一度全体的に図解すれば(略2行)



ようになる。この図形によって語の連続がどのようにして句をなし、句が重ってど

のようにして統一した思想の表現に到達するかを理解すべきである。このような単位の排列と統一の形式を入子型構造と呼ぶのである』…135頁

主語 述語

形義論の構造式 → 梅の~花が || 咲い+ た (助動詞につづくために)

(体修) (主助) (自動) (助動)

‘咲く’が‘咲い’と活用)

○Aは || 失敗した(成功する、落胆する、寝る、起きる、泣く、笑いこける、…)

○Bは || ゴルフする(野球する、プランコする、…、おしっこする、…)

○坂は || 照る照る、鈴鹿は || 曇る(三上113) 2 主動文になる複文

○春が || 来た、どこに | 来た(同上) 2 主動述語からなる連述文

○[僕は ||]下腹が痛くて+一日+寝て+いた(田中411) + 符の前は用修

[]内は省略語を仮に補ったもの、原文には出ていない

○悪いことは || するな(禁止)(田中338) ○これは || まいった(同左)

○嘘は || いつかは+ばれる(田中388)

述語が主動文のもの

○花 は 〓 彼が：折った十にちがいない（言語 3—5）

○太郎は 〓 腹が：立った（同—24）

腹が立つ、癪にさわる、などは一つの連合動詞と見る方がより合法であろう。→太郎は 〓 腹がたった …普通の主動文

(3) 實系文（系＝繫）

述語
主語 〓 賓語 | 系詞

系詞というのは主語と賓語とが、同等または同格であることを表わす特殊な動詞である。この構造では文法上、主語と賓語とを入れ替えてできる。

（すべて 〓 左の助詞は主格助詞（主助）、| 左の助詞は賓格助詞（賓助））

述 語

③ 吾輩は 〓 猫で | ある（| だ、である） 吾輩と猫は同等
（賓語）（系詞）

○東京は 〓 日本の首都で | ある …日本の首都は東京である

○彼 は 〓 郷里で 〓 教員に | なった（を | やった） 〓 符の前は用修

○文法論は 〓 言語学とは | ちがう（異なる、同じ、等しい、似ている、…）

○鯨 は 〓 けもの | だ（三上112） ○鯨 は 〓 魚 | ではない（同左16）

○塩 は 〓 海水で（から） | 作る（田中375） ○社長は 〓 どなた | ですか（田中390）

○酒 は 〓 米から（で） | 作る ○どちらが 〓 社長さん | ですか（同上）

○カゼから 〓 肺炎 | になる（田中377）

○話の行き違から 〓 誤解が | 生じる（同上）

○カゼをひいたのは 〓 寝冷えしたから | だ（同414）

○あいつは 〓 よく食うし、よく働く 〓 男 | だ（同408） 〓 符の前は体修

○あの子 は 〓 一寸も 〓 親に | 似ない（金田—16）

○完成することこそが 〓 恩に報いる道 | だ（田中389） こそ、特指強調の主助

○東京から大阪まで 〓 三時間を | 要する（金田—22頁は‘要する’を他動詞から
ぬ他動詞という）（〔 〕は原文には略された語）

○電車だってバスだって 〓 [そこまで] 〓 一時間は | かかる（田中396）

- [そこまで ||]歩いてもう三十分と | かからない(田中380)
- 人間でありながら | その振舞は || 畜生に | 劣る(金田-18)
- Aの体格は || Bより(に) | 優る(劣る)
- ‘その振舞’は‘畜生のそれ’と同格。‘Aの体格’は、‘Bのそれ’と同格だから
‘劣る’、‘優る’はいま系詞動詞と認めざるを得ない。
- 5に5を足すと || 10[] ○9・9 || 81[] ○言わぬが || 花[] (田中366)
- 花も嵐も踏み越えて行くのが || 男の生きる道[] (田中366)
- []はいま系詞が略されたものと見たのである。—3例とも無主文
- 住民の多くは || 失業中 | だ(田中388) ○鯨は || 哺乳類 | である(同左)
- ワタンは || 彼女の結婚のナカウドを | した(三上108)

述語が賓系文のもの

- 彼女の婚礼は || わたしが：なかうどを | した(三上108)
(小主) (賓語) (系詞)
- 昔は || 京都が：都で | あった
- カキ料理は || 広島が：本場で | です(三上9,162) ‘広島’と‘本場’は同所
- 鈴木大拙は || 金沢が：郷里で | ある(同236)

これらは述語が、形式上主語と述語がそろった賓系文に見えるが、それだけでは文義が完通しないから独立文ではあり得ない。小主語の関連する大主語の述語にしかなり得ない。

およそ一つの独立文は形態上主語と述語が具備しないと文義が完通しないのです。‘金沢～’には‘鈴木大拙’が、‘広島～’には‘カキ料理’が絶対必須の主語であることが、これでよく理解されると思う。

繰り返すが、「形態上、主語と述語が具備しているか否かを見ると同時に、文義が完通するか否かを問うことによって文の成否を確かめる」というのが形義論独自の方法なのである。

文中の部分(いま述語)に現われる主語を小主と呼ぶが、いま‘わたし’、‘京都’‘広島’‘金沢’は小主、その助詞は‘が’であることに注意。

- 十月といっ／たら || 山は：冬 | です(田中388) /たら、もと副助、いま主助

○誰しも || 郷里は：なつかしいもの | だ(田中395) しも、主格助詞

(4) 賓動文 述語が賓語と他動詞

(表 I は無主の賓動文)

主語 述語 述語
主語 || 賓語 || 他動詞(双動・情動)

④太郎は || 学 校 に | 行く

○本 は || 机の上に | ある(三上234) …にある、他動詞

⑨父 は || この本を | 買って+くれました(同9) } ⑨の賓語‘本’を限定特指す

⑩この本は | 父が || 買って+くれました(同上) } るため、主語‘父’の前に倒置したのが⑩、はは限定特指の賓助、がは限定特指の主助。

この構造では3語を倒置した変式がよく現われる。「父が買って+くれました、この本は」「もう行きましたよ太郎は学校に」なども可能である。それが主・賓・動3語の配合である限りは、その順位が倒錯しても、みな賓動文である。

○新聞は | さっきト給仕が || 片づけたようです(三上165)

○[||]あまりト旅に | 出た+くはない(田中388) 無主文

○芭蕉は || 義仲が | 好き+だった(三上201、小林秀雄) …義仲を | 好む

すべて || : の左は主格助詞(主助)、| ・ の左は賓格助詞(賓助)。

○大根は || はっぱを | 棄てます(国研Ⅱ—106) (国語研究所「話しことばの文型」Ⅱ

○昼は || 何を | たべますか (の略)

この2例は見たままに機械的に分析した。

賓語が2つのもの、日本語では前賓・後賓に定位はないから、前後を入れ替えてできる。・点で前後を分ける。

○甲は || 乙に・丙を | 紹介した(三上237) …丙を・乙に | 紹介する

○xは || zに・yを | 与える(同207) …yにzを与える

○[||]ヨーロッパへ・石油を | 送る(田中)

○太郎は || 花子から・英語を | 教わる(Ⅱ—130)

用言を含む長い句文を賓語にとるものを情意動詞というが、情動とて勿論単

語を賓語にとることができる。

○私は || 単元には六種類あると | こういうふうにと考えています(II-123)

○彼は || 自分を秀才だと | 考えた(II-128) 自分を(は)秀才だ、は賓系文

○彼は || 中国が‘地大物博’なのを | 始めてと知った

○「でも、伯父さまは、恋愛している者の気持はおわかりにならないわ」りつ子は || 言った(三上259、井上靖) 「 」内が賓語、長いから、文首に倒置した、‘言う’は情動。

○リンゴの落ちるのを見てとニュートンは || 地球に引力があることを | 発見した

○金をためて外国へ留学しようと | 彼は || 考えた (思う、言う、話す、計画する、…)

○故郷を | 思う ○中国語を | 話す ○文法の方法を | 見つけた

賓動文は最もよく用いられる文型だが、述語が賓動形ものは多く見当らない。

○うちでは || 大根は : はっぱも | 食べます

○これらの設備は || 事故の責任は | 業者が : 負うことになる(三上110)

(5) 処動文

述語は賓動形だが、主語が
‘処’ (または‘時’) というのが特徴

主語

 $\left(\begin{array}{c} \text{処} \\ \cdot \\ \text{時} \end{array} \right) \parallel \left(\begin{array}{c} \text{小主 : 動詞} \\ \text{賓語 | 動詞} \end{array} \right)$
述語

|| : の左の助詞は主格助詞(主助)

主語と述語が具備すると文になる、というのが文法の基盤であるから、主語は文成立の絶対要件である。

‘x は死んだ’は文義のよく通る主動文(主語 || 自動詞)だが、‘机がある’はどうでしょう、文義がよく通るでしょうか、通りませんね、‘あり場所’がわからないからです。ここに‘場所’主語を要求する契機がある。

「ここに(あそこに、二階に、書斎に、隣室に、…) 机がある」と言えば始めて文義が完通します。主語が‘場処’だから、こういう文型を‘処動構造’という。難解な文型だが、これを立てないと文法体系は永久に整備されないだろう。

主語 述語
⑤あそこに || 机が：ある。…がある、自動詞
小主 動詞

○机の上に || 本が：ある(三上264)

○バラの木に || とげが：ある(同261)

○わたしには || 妻も子も：ない(同上) …‘わたしの身辺’という場処

○大丈夫です。わたしに || 名案が：あるんです(同上)

三上246～264頁は‘存在文’を設け、‘ある’‘ない’動詞の例文を引いているが、‘存在’という用語の意味に拘束されて、自然現象などを広く包括することができないのは意義論文法の‘行き詰まり’を実証するものである。形義論が文法用語などにも、できるだけ味気ない客観的表現を用いるのは、意義論の‘落とし穴’に陥らないための用意でもある。

○東京には || 中央官庁が：集中している

○瓢箪から || 駒が：出る(三上18) …から、主格助詞

○花 に || 虫が：つく(同上)

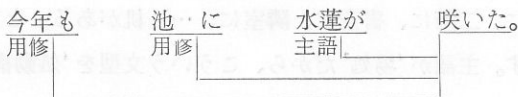
○少年の体は || 枯草の匂いが：漂っていた(同37)

○去年ゝ姉は || 子どもが：できた(同36) …姉の身辺という場所

○先年ゝ仙台に || 地震があった。…この文で‘仙台’という場所主語を度外すると‘先年地震があった’で文義不通となってしまう事実により、場所詞が絶対必須の主語であることが、確認され、時間詞は主語になり得ないことがわかる。‘去年’‘先年’は時間詞であるが、文中に現われる時間詞は一般に用修(連用修飾語)になる。

主語 述語
○今年もゝ池に || 水蓮が || 咲いた(林235) ゝ符の前は用修
(用修) (小主) (自動詞)

林四郎「言語表現の構造」235頁は次のように分析する：



		付加語	主語	述語
これを形義論の構造になおすと 2用修のある主動文となる	}	今年も	池に	水蓮が
		(用修)	(用修)	咲いた
				主動文

林氏の分析ももとより可能であるが、すでに‘今年も(時)’‘池に(所)’と2語が先行しているのだから、その場所詞を主語に配して
今年も池に水蓮が：咲いた。と処動文にすると、形態も意味も、より一層安定するのでないだろうか。

○昨夜ト京都には大雨が：ふった

○西山の尾根に太陽が：沈んでいった

○砂漠地帯から石油が：湧き出る

○朝顔には赤いのや青いのや白いのが：ある(田中404)

○〔～には〕学校や病院や市役所が：建っています(同上) 無主文

この構造では文首に時間と場所と2語があるときは、当然‘所’が主語となるが、‘所’がなく‘時’だけのときは、今度は‘時’が直ちに主語となる。

○きのうは(時)大風が：吹いた(三上9)

○四月一日から新学年が：始まる

○第二次世界大戦では数百万人の若者が：戦死した

述語が処動文のもの

○あの学校は屋上に望遠鏡が：据えてある(三上110) …屋上は学校の部分

○中国の大平原では地平線上に太陽が：沈む …地平線は平原の属性

複述文

		述語	
(6) 通述文	主語	賓語	動詞〔兼語〕述語
		前述	後述
		〔兼語〕は文面には現われない	

前述語の賓語が後述語の主語または賓語を兼ねるから、それを兼語という。兼語をパトンとして前述語と後述語が通結するから、通述文という。兼語あるによって、||符が2見(賓・主兼語のとき)、または|符が2見(賓・賓兼語の

とき)するのが形態上の特徴。

○私は先日真鶴へ行きましたが、なかなかいい所でした(Ⅱ-91)

[]の内は兼語で、実際には文面に現われない。

私は 〓 先日 〓 真鶴へ 〓 行きましたが、〔真鶴は〕 〓 なかなか 〓 いい所 〓 でした

前述語(賓動文)

後述語(賓系文)

‘真鶴’は前述語の賓語で、後述語の主語を兼ねる。|| 符2 見。

兼語‘真鶴’を中軸として前述と後述が通結する。

○僕は①昨晚アイスクリームを買ってきたが、②冷蔵庫に入れ忘れたので、③一晩でとけてしまった。

解説の便宜上、述語ごとに行を替えて分析する。〔 〕は兼語

僕は①アイス…を | 買ってきたが、 …賓動形

②〔それを | 〕冷蔵庫に | 入れ忘れたので、…**賓動形**…兼語は**賓語**

③[アイスはⅡ]一晩でとけてしまった …主動形…兼語は主語

②は兼語を賓語に承けて成り立ち、③は兼語を主語に承けて成り立つ。3述語は緊密に連系し、どの一述語を欠くこともできない。欠けば文は不成立。

○雨は降る降る城ヶ島の磯に、利休ねずみのゝ雨が：降る(三上112)

雨は || 降る降る | 城ヶ島のゝ磯に || 利休ねずみのゝ雨が : ふる

賓・主兼語

前述は倒置の置動形

後述は正形の処動文

(7) 連述文

述語

主語 || 述語、述語、一、一、…

同一主語の下に前掲(1)～(6)文の述語が2つ以上並列するものでわかりやすい。通述の方が連述より複雑なのだが、連述には通述語も現われるので、通述をまずやらざるを得ない。‘連動’と言わぬのは述語は動詞に限らぬから。

文は左から右へ一行にただ延びるだけなのだが、いま解説の便宜上、述語ごとに行を替える。

○東京は＝勤勉な人が：たくさんゝいて、…(処動文)

「その人々が」|| 一生懸命に働いているのだが、…(主動文) } 遙述形

町も：汚いし …(主表文)

道も：汚い。(三上131)…(主表文)

1 述述文と2主表文から成る3連述文

○吾輩は||猫で|ある、名は：まだゝない。(漱石) …2連述文

第2述語は形式上主動文だが、文義が完通しないので独立文であり得ないのは、小主‘名’は‘吾輩’の属性だからである。

○人は||生れて、苦しんで、そうしてゝ死ぬ() 3自動詞述語から成る連述文。そうしてゝ …接続詞

○皆さんも＝もうゝご存じのことと|と思いますが、…(賓動形の述語)

└Aさんが||博士に|なりました。(国研Ⅱ—248)…(賓系形の挿句)

連述文で、全文の主語と異なる主語の述語を挿句という。いま‘皆さん’は全文の主語、‘Aさん’は‘皆さん’とは別人であるからこの後述語を挿句という(└符の後)。この文は、一主語‘皆さん’の下に前述と後述(挿句)とが、こういうふうに並んで、始めて文義の完通する一つの文となるのであり、挿句を切り離せば、この連述文は崩壊する。

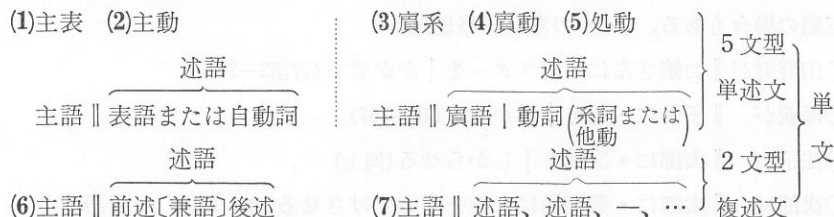
複述文は述述・連述以外は考えられない。すると

単文は { 単述文 5
複述文 2 } 計7型

以上を要約すると

1. 形態上主語と述語が配合すると、意味が完通して文が成立する

2. 主語と述語の配合形式——構造形態には次の類型がある



これ以外の文型は考えられないから、この7型が日本語の意味表現の基本構造の全部ということになる。全部とはこれ以外に文型はないということ。ただ

2つの変式は別に付記しておく必要がある。

2つの変式——使動式と受動式

日本語では単述文としては上掲5文型しか考えられないが、言語の実際の運用面では、さらに使役・受身の表現形式を立てる必要がある。使・受の表現は助動詞の添加による以外に方法はないが、助動詞はあらゆる用言に添着するものであるから、5文型の主要用言をも、使役または受身に変えることができる。

主要用言

使役助動詞

受身助動詞

	さす、させる	らる、られる、させられる
美しい(表語)	美しくさせる	美しくされる　させられる
落ちる(自動)	おとさせる	おとされる　おとさせられる
猫になる(系詞)	に[なら]させる	になられる　ならさせられる
学校に行く(他動)	行かす　行かせる	ゆかされる　ゆかせられる
本をおく	おかす　おかせる	おかされる　おかさせられる

だから使役・受身を、さきの5文型と対等に立てることはできないから暫く便宜処置として、使動式・受動式という2つの変式を立てる。

(8) 使動式（単述文）

述語

主語(施事) || 賓語 | 使役義用言

述語用言に使役助動詞‘さす・させる’が添着して使役義となるもの。この構造では主語は常に施事(はたらきかける主体)であり、一般に双賓をうけるが、三賓の場合もある。(・|の左が賓格助詞)

○山野君が || お嬢さんに・ポスターを | かかせる(言語3—28)

○母親が || 子供に・道を | 歩かせる(Ⅱ—167)

○花子が || 太郎に・次郎を | しからせる(同上)

○次郎は || 太郎に・郵便局に・金を | あずけさせる(Ⅱ—131) …賓語3つ

○Aが || Bをして・Cに・Dを | 見せさせる(三上150) …賓語が3つ

以上はみな賓動文の使動式

- 彼は || むす子に・あととりに | ならせた(Ⅱ-129) … 賓系文の使動式
○Aさんは || この子供に退屈させまいと | 気を使っている(三上189) … 賓動文

賓語句が使動形

情動

- 学生に | 練習させる (赤5-191) } 昭和40年3月明治書院「国語文法講座」
~学校に | 行かせる (赤3-200) } (赤表紙-5)が、後3例を「規範的には
~気分を | 落ち着かせる(赤5-204) } 文法上の誤り」というのは、どういう意
~気分を | 養わせる (同上) } 味か僕らにはわからない。もし使役助動
~落ち着いてゝ読ませる(同上) } 詞を消去すればただの他動詞となるだけ
→気分が : 落ち着く 気分を | 養う 落
着いてゝ読む。

使役助動詞はあらゆる用言に添着するから、他の文型同様その例文は無数。

(9) 受動式 (単述文)

述語

主語(受事) || 賓語 | 受身用言(自動詞+受身助動詞)

述語用言に受身助動詞らる、られる、させられる、が添着して受身義となる。

主語は常に受事(はたらきかけられる主体)であるのが特徴。

- 川野が || 大野に | つきとばされた(言語3-28)
○Cは || Bに | 殺された(三上235)
○操縦士は || モスクワに | 連れてこられた(三上138)
○私は || …自己肯定のすさまじさに | 圧倒されたのである(三上117, 太宰治)
○花子は || 先生に | ほめられた

これら賓語あるものは賓動文の受動形である。

- 次郎は || なぐられた(Ⅱ-165) … 以下賓語のないものは主動文の受動形
○日本語の調査が || 行われた+という(同-40) (国立国語研究所「話しこ
○リンゴは || 食べられ+ちゃったよ(Ⅰ-158) とばの文型Ⅰ、及びⅡの
○こういう運動が || 続け+られている訳です(Ⅱ-120) 略)
○天体望遠鏡は || 近年ゝすぐれたものが : 作られるようになった(三上76)
○米国でも || 麻薬が : 禁ぜられている。 … 処動文の受動形

○田が畑が道が || つぎつぎに 水で | 覆われた(田中409) …賓動文

○[||]手だの足だのを・虫に | さされた(同405) …賓語が2つ

受身助動詞はあらゆる用言に添着するので用例は枚挙に勝えない。

受身は‘受損’表現に用いられるとは、内外文法家のよく言うことだが、こういう意味論は厳しく排撃されねばならない。○ほめられる、抜擢される、大統領に選ばれる、は受損だろうか。受損・受益の語義にこだわっては、文の客観的構造形態を把握することはできない。

それから例えば、郵便屋が玄関に小包を置いて行ったとする。‘おっ小包がきた’（届いた）という。小包は能動力がないから、実際は届けられたのだが、日本では‘受身表現’は用いずに、④手紙がくる、小包がきた、という。これは①友人がくる、お客がきた→主動文と意味上の相違があるけれども、形義論は構造形態に即して④類を①類と同様に主動文と見なす。○大根は || はっぱを | 棄てる。を構造に即して賓動文と見なすように。

らる、られる、は表敬、可能義にも用いられるが、受動との区分は‘背景’を見て文義を考えれば誰にも判別できるだろう。

○校長先生は || 東京に | 行かれた(大野125) …表敬の賓動文

○彼も || 漢文が | 読める(読まれる)ようになった。 …可能の賓動文

単文は以上7型2式である。

5 複 文

複数の単文が一つのまとまった意味を表わすように集まったものを複文という。すでに単文の構造形態が究明されたのだから、複文の文法は、単文と単文とのつながり方——連接方式だけに残される。そのつながり方により複文は次の6型に分けられる。

(1) 中接文 前文が用言の中止形なるにより後文に連接する

○空は || 高く、海は || 清い（「講座日本語の文法」22—180） … 2 主表文

○雨も 止み、風も 止んだ。… 2 主動文

○ぼくは || 行く／が、君は || 待ってろ（田中388） … 2 主動文 / が、副助

(2) 接詞文 複数の単文が接続詞または副助詞により連接

○雨が || 止め／ばと我々は || 出発する（講座…2—180） … 2 主動文

○東京は || 名古屋の東に | ある ①…賓動文

名古屋は || 京都の東に | ある ②…同上

故に、東京は || 京都の東に | ある ③（言語3—17）

①②③は、それぞれ独立の賓動文で、もともと何らの連系もないのだが、いま「故に」という接続詞が③の前に挿入されると、3 文の独立性は失われ、連系して一つの新しい意味のまとまりとなるから、3 文を併せて一つの接詞複文という。

ここで注意したいことは、文法は論理学とは無縁であるということ。①②③の順序と文義が合理的か否かは問わないのである。

‘枯木に花が咲く’という文については、文法論は、それが‘処動構造’という表現形態であり、‘枯木に花が咲く’という意味を表わしているというにとどまる。枯木に花が咲く、という道理があるか、そういう事実があるか、あり得るか、などは一切問わない、問うべきでない。論理学や哲学を導入することは文法論を歪めるという意味で有害である。三、四歳児は理屈なしに言語を話す。言語とはそういうものでないだろうか。

(3) 承前文 後文が、前文またはその一部を承ける

○京都には || 名所旧跡が：たくさんある（処動文） これは || それを | 書いた
～案内書で | ある（賓系文） …‘それ’は前文の名所旧跡をうける。

(4) 並列文 同類の主語または述語が並列または重複する

○雨が || ふる、風が || 吹く、とても、外へは | 出られない（「国語文法講座」1—116） … 第3 文は無主の賓動文で、前2 文とは因果関係

○娘は Ⅱ 家出して、息子は Ⅱ ぐれてしまった(田中388) …2 主動文

(5) 問答文 問句と答句は、当然併せて一複文

○君は Ⅱ どこに | 行きますか [僕は Ⅱ] 学校に | 行きます。…2 賓動文

(6) 因果文 前因後果の順に配列する

○大雪が Ⅱ ふった 新聞は Ⅱ まだ 届かない

大雪がふった、ために新聞がこない、と解釈されるから、因果文が成り立つ。しかしここには接続詞も、重複も、並列もなく、形態の上でこの2文を連系する客観的標識が何もない。だからただ2つの独文が並んでいる一段の文章であるといっても、それを否認する理由が見つからない。これが文の限界である、これが文と文章の境界である。

○ 以上で文型論は完了。

6 自然言語と付加成分

言語は主語と述語の配合によって成り立つものだが、自然言語は主語と述語だけで発話されることはごく少なく通例主要語を修飾または制限するいろいろの詞語が付帯される。それを付加成分略して付加語という。一つの文については主要語以外はすべて付加成分である。

付加語はそれが添加される限り、文の形態が繁長に、意味が複雑になるが、文の成否には関与しない。言うなれば文の成立には、あってもなくてもいい加否自在 (optional) の詞語である。だから付加語という。付加語は累加併用できる。

いま付加語のある自然言語を例示すると次のようになる。

おもなる付加語の分析符号

ゝの前は連体修飾語—連体語—体修…(形容詞性)

ゝの前は連用修飾語—連用語—用修…(副詞性)

十の後は助動詞…必要と思われるときにだけ付ける

符号は文の構造形態を明確にするために臨時に添付したものだから例文

を読む時は一切無視度外する。

表 III 付加成分のある自然言語（表 II と対照されたい）

(1) 主表文 主語 || 表語(述語)

花は || 美しい…主要語だけ

主 語	述 語
① 吉野山の桜の~花は	ことのほか 美しかった (しく+あった)
体修	用修 助動

いま 2 主要語のどれか一つを度外すると文は不成立 …[消去した語]

⊗ 吉野山の桜の[] ことのほか美しい…主語を欠く…体修は主語にならない

⊗ 吉野山の桜の花はことのほか[]…表語を欠く…用修は述語にならない

○ 館山湾は	外海に比べると	たいへん	静か	だ
	用修	用修	助動詞	

主要語だけ…館山湾は || 静かだ…形容動詞には‘だ’をつけて終止する

○ 日本の首都~東京は	世界中どの都市よりも	人口が：多い	という
体修	用修	助動	

主要語だけ…東京は || 人口が多い。…

{	主語を欠くと…⊗人口が多い
{	小主を欠くと…⊗東京は多い
{	表語を欠くと…⊗東京は人口が

(2) 主動文

	述語
主語	自動詞 …木の葉が 落ちる

主 語	述 語
② 秋になる / と	木の葉が はらはらと落ちて + くる
用修	用修 助動

/ と、副助詞

仮に主要語のどれか一つを度外すると、文義不明となり文は不成立。如下

⊗ 秋になるとはらはら落ちる。⊗ 秋になると木の葉がはらはら。

○ まだ	残雪がある / のに	庭の~	梅が	ちらほら	咲き +	出した
	用修	体修	用修	助動詞		

/ のに、副助詞。動詞‘咲く’が‘咲き’と活用。主要語… 梅が咲く

○暑すぎる／せいかと葉が || しおれて+きた(田中415)

主要語… 葉がしおれる

／せいか、副助詞、‘しおれる’が‘しおれて’と活用

述語

主語 || 賓語 | 系詞 … 主要語は3つ

述語

賓語

系詞

③吾輩こそ〓漱石の小説に出てくる〓あの〓猫で〓ある（猫〓である）

体修

こそ、特指強調の主助。主要語…吾輩こそ猫である

3 主要語のうち、どれが一語が欠けると文は不成立〔欠落主要語〕

⊗〔主語Ⅱ〕漱石の…あの猫である。…主語を欠く

⊗吾輩こそ ㍿漱石の～あの〔賓語〕である。…賓語を欠く

④吾輩こそ〓 ～ ～あの猫で〔系詞〕 …系詞を欠く

○彼は Ⅱ 三年前／から Ⅲ 郷里の Ⅳ 小学校／で Ⅴ 教員を Ⅵ して Ⅶ いる

用修

助動

主要語だけ…彼は教員をする

述語

主語 || 賓語 | 他動詞 … 主要語は3語

述語

④お隣の「太郎は」毎朝八時に「次郎と一緒に」学校に「行き」ます

用修

用修

助動

主要語だけ … 太郎は 学校に 行く … 3 語

主要3語のどの一語かを度外すると、体修・用修がどんなに長くとも意味不

完全で文は不成立。

④お隣の〔 〕毎朝～次郎と～学校に行く …主語を欠く

④お隣の太郎は毎朝～次郎と〔 〕行く …賓語を欠く

⊗お隣の太郎は毎朝～次郎と学校に〔 〕 …他動詞を欠く

主 語 述 語
○君のさがしているゝ英語のゝ本は || あゝ机の上に | ある+じゃないか
体修 体修 助動詞

主要語だけ … 本は 机の上に ある … 3 語

主 語 述 語
○授業が終った／らゝ僕は || 廊下でゝ B を・A に | 紹介する+つもりだった
用修 用修 助動詞

前賓・後賓に定位はないから‘Aに・Bを’と替えることができる。

主要語だけなら … 僕は B を・A に 紹介する… 賓語が2つ

(倒賓形の賓動文の) 賓語 主語
○この申出を | A は || きっとゝ承知して+くれるだろうと | B は ||
述 語

ひそかにゝ期待して+いた
用修 情動 助動

長い賓語を明確にするために主語の前に倒置した形。倒置形はよく現われる。

用言を含む長い句文を賓語にとる動詞を情意動詞(情動)という。

主要語だけなら … 賓語〜と | B は || 期待した(賓語が主語の前に倒置)

(5) 処動文

主語 || (小主
賓語 |) 動詞 … 主要語は3語
主 語 述 語
⑤あそこのゝ納屋に || 父が: 長い間使いふるしたゝ机(が
を |) おいて+ある
体修 体修 小主または賓語 助動
文中の部分——体修に現われた小主‘父が’、述語に現われた小主‘机が’に注意。
主要語だけなら…納屋に || 机が: ある …〜に || 机を | おく
小主 自動 賓語 他動

3 主要語のどの一語が欠けても文は不成立:

⊗あそこの〔 に〕父が使った机がおいてある …〔主語〕を欠く

⊗あそこの納屋に父が使った〔 が〕おいてある…〔小主〕を欠く

⊗あそこの納屋に父が使った机が〔 を | 〕 …〔動詞〕を欠く

○去年 田舎の 姉は || 待望の 男の 子が : 生まれ + た
 用修 体修 体修 助動

主要語だけ… 姉は || 子が : 生まれ + た

(姉は || 子を | 生んだ …なら賓動文)

主要成分の配合構造である表Ⅱの5文に付加成分の添加した自然言語がこの表Ⅲである。

自然言語は表Ⅲで見るように主要語のほかに各種の付加語が添加されるのが通例である。いま連体語、連用語、助動詞などは主なる付加成分である。

付加語はいかに累加併用されても、主要語の構造形態にはいかなる影響も変化も与えるものでないことは表Ⅲの分析で明瞭である。だから付加語はその一部を消去すれば、それだけ文義が簡単になり、全部を消去すれば主要語だけの素朴な配合形態に還元するだけで、文はなお完全に成立する。付加語のこのような性能を *recursiveness* 循環性とか還元性という。この用語は S-Y Wang (王士元) から借りたものだが、彼自身は‘環発性’と訳し、われわれよりも広い意味に解釈している。

付加語の有無または多少は主要語の構造形態(文型)にはいかなる影響変化をも与えるものでないから、表Ⅲの5文は表Ⅱの5文と同一構造と認めざるを得ない。すなわち表Ⅱの例文①②③④⑤に付加語の添加したものが、表Ⅲの①②③④⑤であるが、主要語だけの配合形態を見ると、両者の間に何ら変化のないことが確認される。

よって表Ⅱ、表Ⅲを通じ、主要語は

- (1)は主語と表語の配合だから…主表構造
- (2)は主語と自動詞の配合だから…主動構造
- (3)は述語が賓語と系詞の配合だから…賓系構造
- (4)は述語が賓語と他動詞の配合だから…賓動構造
- (5)は述語は小主(または賓語)と動詞の配合だが、主語が場所(または時間)だから…処動構という。

煩瑣だからこれ以上例文は挙げないが(6)通述文(7)連述文および(8)使動(9)受動、2式についても、主要語と付加語との関係は上掲5文と同様なのは言うまでも

ない。

以上(1)～(9)の例文——各種付加成分の累加併用された自然言語は後部「基本構造」でさらに収録列挙するであろう。

註 王士元 (William S-Y Wang Dept. of Linguistic Univ. of California) 「もし句(文)が、“有限多”であるとすれば、ひとまとまりの文法を書こうとすれば、句を一つ一つ列挙すれば、それでいいわけである。しかし実際は句表現は“無限多”であるのに、文法規則は“有限多”である。だから文法には必ず一種独特の性質があるはずである。その特性を“recursiveness 環発性”と呼ぶ。環発性というのは、“有限多”の基本材料を用いて“無限多”を産み出す現象にほかならぬ(案：とは generative の意をも含んでいる)。ゆえに言語学者が、言語の能力を解釈して、その文法を作るという時には、必ずその中に環発性をとり入れなければならない。(中略)もしもわれわれが適正な文法の“模型”を抽出することができるなら、それは科学史上驚異的な成果というべく、さらには人類の思想および文化を研究する一切の学問に巨大な影響を与えるにちがいない。」(台湾、中国語文月刊第18巻6期)「句法分析の原則」(原文は漢語)

(1)‘主語と述語が配合して、意味が貫通完結する’言語単位を‘文’と規定し、(2)文の構成成分を主要語(主語と述語)と付加語に分け、(3)主要語だけの配合形態によって文の基本類型を抽出し、(4)付加語は文の成立には無関係の成分だから、別のレベルで考究する。という方法は、形義論が独自に開発したものである。この点でさきに指摘した通り、内外のあらゆる文法論と根本的に相違する。

7 付加成分の文法

自然言語には各種の付加語が添加されて、文の意味を複雑多様に潤色するから、今度は付加成分の文法を考究しなければならない。

(1) 助動詞

主要用言——動詞・形容詞の後に添加されて、その意味を変える動詞・助動

詞、その他の詞語をすべて助動詞という。累加併用できるから、往々長い述語が現われる。＋符の右。主要用言の意味を変えるものであるから＋符の有無にかかわらず、用言と助動詞とは連続する。符号は煩わしいから付けないことが多い。

○美しい…美しく＋ない 美しく＋あって＋ほしい 美しい＋でしょう

○行く…行か＋ない 行か＋なかった 行く＋つもり／で＋ある

行か＋なく／とも＋いい。／で、とも、副助詞

行き＋たい＋と思わぬ＋わけでは＋ない＋のだ＋けれども

○知ら＋なくは＋ない 好きで＋なくはない(品・西尾146) (品詞別日本文法講座、

○遅刻した＋そうだ、＋ようだ、みたいだ(品・鈴木127) 助動詞Ⅰの略)

動詞・形容詞・助動詞の終止形が、後続の助動詞につづくために、語尾の変化するのを活用という。活用する動詞・形容詞・助動詞を用言と総称し、活用しない名詞を体言という。活用には、それぞれきまりがあるが、簡単で、小学生もほとんど誤ることはない。誤れば正常な日本語にならないから。

(2) 連体語(連体修飾語—体修)と接続詞‘の’

体言(名詞)の前に直接して、それを修飾する語句を連体語という。形容詞がその典型であるが、品詞名では掩い切れぬ長いものが少なくないので、連体語という。ゝ符の前。累加できる。

○美しいゝ花 高いゝ山 簡単なゝ試験 価値あるゝ研究 草茫茫たるゝ蒙古のゝ大平原

連体語には名詞と名詞をつなぐ接続詞‘の’がよく用いられる：

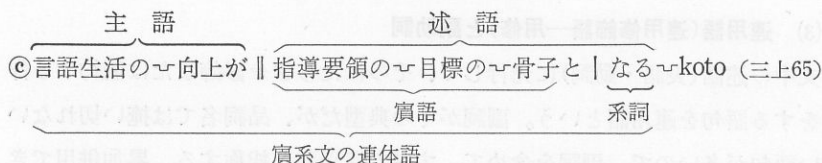
○僕のゝ両親のゝ住んでいるゝ田舎のゝ古いゝ家

㊦象のゝあのゝ長いゝ鼻 ㊧父が買ってくれたゝこのゝ本(三上129)

○鐘の鳴るゝ丘(鐘がなる) ○橋のないゝ川(橋がない)

○両親の住むゝ田舎(両親が住む)

○切符の切っていないゝ方 ㊦切符の切らない方(㊦切符が切る、は不成立)



いま完全の賓系文がそのまま koto (こと・事)の体修となっている、この類の長い体修の例文は、三上「象は鼻が長い」、奥津「生成日本語文法論」などに無数に出ているが、これらはただ体修の例文というにとどまり、それ以外の文法は何もわからない。

主語・賓語は一般に体言だから、一部の人称代詞のものを除き、連体語のつかないものは少ない。いま上例③～鼻、④～本、⑤～koto にハ・ガを送れば主語、ヲ・ニを送れば賓語となる。主・賓はともに主要語。連体語はいかに長くとも、主要語の意味をそれだけ複雑多様に潤色するだけで、その性格を変える力はない、付加語だから。

○未来への～希望 独立への～歩み ヨーロッパへの～憧れ(田中373)

○父が捺印させられた～書類 生きていた／ら、喜んだ／であろう～知らせ
(田中365) ／ら、であろう、…副助詞

○道が県庁にぶつかる～手前 ○娘がふり返り／ながらゝ遠ざかる～後姿(田中365) ○今／しもゝ太陽が西の山の端に没しようとする～時(同395) …文首に用修 ○高い／のにゝおいしくない～店(田中424) ／ながら、しも、のに、…副助詞

○急行が止まらない～駅(田中364) 憲法で保証された～権利(同375)

○不況時代を生き残った～会社(同368)

○〔僕は〕英和辞典で手頃な～のが | ほしい(田中376) 無主の賓動文

辞典の手頃なの(後ののは体言‘モノ’の略)、ではのが重複して語調が弱い、辞典で、というと‘辞典’と‘手ごろなの’と両方がきわだつ。これは‘東京の神田の生まれ’ではあまりに平板だから、‘東京は神田の～’と言って、東京と神田と両方を強調するのと同じ手法。

○自分が建てた～家 ○お玉が生まれた～時(大野37)

(3) 連用語(連用修飾語—用修)と副助詞

文中の述語(表語・動詞)に先行して、そのはたらきを修飾または制約する作用をする語句を連用語という。副詞がその典型だが、品詞名では掩い切れない長い語句が多いので、副詞を含めて、すべて連用語と総称する。累加併用できる。ゝ符の前。

文中である語句が連用語となるためにつく詞語を副助詞(副詞)といい、格助詞(主要語——主語・賓語——につく格助詞)と区別する。‘時’を表わす詞語で用修になるものは文首すなわち主語の前に置かれ、へで承けるものが少なくないが、このへは副助で、主助でないことを注意する。

副助詞は連用語に最もよくつき、時に連体語につくが、稀に主要語につくことがある。／符の後(連用語以外のものには付けないことが多い)、〔 〕は略されたと思われる詞語を仮に補ったもので原文には出ない。

	用修		用修		述語
○〔主語〕	親譲りのゝ無鉄砲／でゝ	子供の時／からゝ	損／ばかり／してゝ	いる	
	用修	賓動形の述語	用修		
	小学校に居るゝ時分ゝ	学校のゝ二階から	飛び降り／て、一週間／ほどゝ		
	腰を	抜かしたゝ事が：ある(三上、坊ちゃん)	小学校にゝ抜かしたゝ事		
			全文が連体語		

／で、から、ばかり、して、ほど、…みな副助詞。|符の左—から、を、賓格助詞。このように符号を用いると、説明しなくとも、各詞語の性格が明瞭になる。

主要語…〔僕は||〕ゝ損している …損〔を〕する(連合動詞) …主動文

〔僕は||〕ゝ事が：ある …賓動、主動 2 述語の連述文

この2文を併せて一複文。損する、得する、…は、勉強する、哲学する、…などと同類の連合動詞。損／ばかり／する } ばかり、て、はいま動詞に現わ
飛び降り／て } れた副助詞だろう。

○通信がと絶えた／以上ゝ ○市長が代わった／途端ゝ } (田中365)
○会社が破産しない／限りゝ ○景気が停滞した／結果ゝ }

この4句は／符の前は主・述が配合した完全の文であるが、いま、以上・途

端・限り・結果、という副助詞の添加により、独立性が消え、文中の部分である連用語となったのである。ここで注意したいのは、文中の部分（いま用修）に現われた小主語——通信・市長・会社・景気の主格助詞はガであるということ。‘象は 〓 鼻が：長い’（主表文）の‘鼻が’（いま述語中の小主語）と同類。

○美し／そうに 〓 着飾る （田中 ） } /そうに、なく、らしく、で、副助
○何気／なく 〓 話す （ 〓 ） } 詞。今日は、のハは表時詞が用修に
○男／らしく 〓 戦う （ 〓 ） } なるために後付された副助で、主格
○今日／は 〓 いそいそ／で 〓 帰る（ 〓 ） } 助詞（主助）ではない。

○知らない／うちに 〓 出港していた（田中369）

○凶作／で（から） 〓 暴動が 〓 起った（ 〓 375） 無主の処動文

○証拠がある／から 〓 調べたのだ（ 〓 385）

○まさに 〓 快挙／という／に 〓 ふさわしい（ 〓 384） 無主の賓系文

○氷の／ような 〓 手（ 〓 384）。／ような、は体修に現われた副助詞

○今年／あたり、一人三冊／あて、今日／かぎり、三人／分、…

○東京・大阪／等（田中387） ハ・ガで承ければ主語、ニ・ヲなら賓語となるから、この等（など）は主語・賓語に現われた副助と言える。

以上 /～、はみな副助詞。

連用語や副助詞、それから格助詞などの用例は、「岩波講座 日本語 7 文法 II」361～454頁 田中「助詞」に無数に出ている。

（4）格助詞（主格助詞と賓格助詞）

形義論は文の構成成分を主要語と付加語に分けたが、主要語である主語および賓語を承ける助詞を、それぞれ主格助詞（主助）、賓格助詞（賓助）と呼び、併せて格助詞と総称し、付加成分——連用語・連体語——に現われる 副助詞（副助）と区別する。

ここで表 I、II、IIIを回顧して下さい。

格助詞 { 〓 の左の助詞は全文の主格助詞で、‘ハ’が圧倒的に多い } 主格助詞
 { : の左の助詞は小主の主格助詞で、‘ガ’が圧倒的に多い }
 { | および・ の左の助詞はすべて賓格助詞で、ヲ・ニ・ヘが比較的多い。よ

って次の文法が得られる：

およそ独立文の主格助詞は処動文の一部を除き、すべてハ、何らかの背景を意識したときはガ、並列義のときはモ、謙退義にはデモ、…など。

処動文ではニ・ニハ・デ・カラ…など——○瓢箪から||駒が:出る

眞系文で、文語調ではヲが現われることがある：○これを〓格助詞と|いう
(と呼ぶ、と称する)——○これが〓格助詞|である。と同じ

初対面には○私は 〓 高橋と | 申します(～高橋という者 | です)といい「高橋
がいま話題となり、‘高橋サンはどなた?’に答えるには」○私が 〓 高橋[という
者] | です。(「 〓 」内がいわゆる背景)

田中 375 頁の例文は、形義論は次のように構造分析する：

主 語	述 語	
○仙台(ニ)デ	地震が：起った 小主	3例とも処動文で主語が場所だから主助はデ・ニ＝、
：		小主の助詞はガ。用修に現
○中東(ニ)デ	暴動が：起った(田中375)	われる／で、から、によ
：	用 修 小主	て、は副助
○中東(ニ)デ	凶作／で(から)ト暴動が：起った	
：	〓 庄政／によってト暴動が：起った	
主助	副助	
：		
○塩	ハ 〓 工場／でト海水(デカラ) 作られる	賓系文。／で、副助。デ、
	電気／でト	カラ、は賓助で、上文の／
	賓語	で、から、とは異なる。

主格助詞ハの絶対性

‘主語ハ’は全文の主語で、述語が幾つ連なっても最後まで支配する。

- ①吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生れたか頃と見当がつかぬ。
何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いて居た事丈は記憶している
(三上118、漱石)
- (イ)‘吾輩’は全文の主語で最後まで支配する。4述語が並ぶ連述文。
(ロ)‘名前は：まだない’は形式上主動文に見えるが、これだけでは何について
言っているのか、文義が完通しないから、独立文ではあり得ず、‘吾輩’

の第二述語にしかなり得ない（‘名前’は‘吾輩’の属性）。——文の構造形態を見ると同時に、文義が完通するか否かを問うことによって文の成否を確かめるといのは、形義論独自の方法。

(イ) ～いた事／だけ／は | 記憶している。の‘事’は動詞‘記憶する’の賓語だから、普通なら‘～事ヲ’と送るべきだが、いまは‘外の事なら兎も角、この事だけは’と限定特指の賓助へに替えたもの。／だけ／は、もと副助だが、今は賓助と併せて、‘だけは’を一つの賓助と見る方が合法であろう。

② 今日／は | 頭が痛む／から | 俺は || 野ら仕事は | 休む。(は3見、が1見)では、今日／は、副助詞、俺は、主格助詞、仕事は、限定の賓格助詞。頭が、用修に現われた小主で‘痛む’だけにかかる。

③ 本多誠吾ハ(全文の主語) || …(四行略) 遂に官房の課長になった。(賓系文) 父ガ(小主) : 広島地方裁判所に勤めている ~ 時 | 脳貧血で | 倒れた拍子に頭を打ち、それから(接続詞) 時々激しい頭痛に襲われ、役所を退官して + しまった。(三上126、今日出海) … 事実合わないからこの文章は誤り

(イ) ‘誠吾ハ’は全文の主語、‘父ガ : ’は小主語で、直後の動詞‘勤めている’にしかかからぬから、‘脳貧血で ~ 退官してしまった’。は全部‘誠吾ハ’にかかってしまう。

(ロ) もし「脳貧血で ~」以下最後まで、誠吾の父のことなら、‘父ガ’という小主を‘父ハ’という大主語に改めなければならない。

④ 將軍吉宗は || 伏見宮理子王女を、正妻に | むかえ、宝永三年に | 挙式したが [] 結婚わずか四年目の宝永七年の六月にはもうこの世の人ではなかったのだ。(三上127、川口松太郎)

(イ) 原文のままなら事実合わないから誤文。‘將軍 ~ は’全文の主語で最後までかかる。

(ロ) 死んだのは理子だから、[] の所に‘理子ハ’と別の主語を立てて、吉宗の支配を中断しなければならない。

⑤ 虎は既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、又元の叢に躍り入って、再び其の姿を、見なかった。(三上139、中島敦) 虎は(全文の主語) … [自分の] 姿を見なかった。では文義が通らぬから、必ず‘其の姿を

見せなかった’と使動風に改めねばならない。

主語 述語

⊖雨ハ || 降る （主動文）雨というもの的一般について‘雨は降るもの’という抽象的な説明となる

⊖雨ガ || 降る （主動文）は特定の時・所、環境について具体的な状景描写となる … 今ここで雨がふっている

言語というものは必ず何らかの背景（前後文と‘場’）があるもので、ただその一句だけがポツンと話されるということは絶対にない。背景を見れば、ハ・ガの相違は自然に明瞭になる。

⊖は○雨は空から降ってくるもので、地から湧き出るものではない。

⊖は○朝から曇っていたが到頭雨が降ってきた。

⊖では絶対に‘雨ガ’とは言えないし⊖では‘雨ハ’とは言えない。

要するに等しくハ助詞でも、それが①普通の主助か②限定の賓助か、それとも③副助かは、文の構造形態を見れば紛れなく明確になるし、ハとガの相違は、大主か小主かを見、背景を考えれば自らはっきりするだろう。——文の基本構造を立てることが大前提。

賓格助詞（賓助）

表Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの例文を回顧すれば一目瞭然である。

符号 | ・ の左の助詞がすなわち賓格助詞である、多見する順序から仮に挙げて見ると：ヲ ニ ヘ … モ … カラ デ …

注意したいのは下例のハ、ガ、デハ、はともに賓格助詞ということ。

○僕は || 英語ハ | 読めるガ、フランス語ハ | だめです。…ハ、並列の賓助

○僕は || 水ガ | 飲みたいので、ジュースでハ | ありません。…限定の賓助

○米洗う前ヲ(ニ・ヘ)螢の二つ三つ(田中374)

前ニ、ならそこに止って動かない。ヘ、なら一方的方向を示し、ヲ、なら自由に飛び交う感じとなる。

大野晋「日本語の文法を考える」（略称「大野」）26頁～43頁あたりには、次の

ように、位格の異なる助詞を同列に解説しているが、僕らは取らない。

形義論の解釈は如下：

∥の左は主助、|の左は賓助、／の右は副助

あらゆる独立文の主格助詞は、一部の処動文を除き、すべてハ。

○地球は∥丸い(26頁) 主表文の主助

○この鼠は∥猫は|食わない(27) …賓動文、ハは限定の賓助

○…そこへハ|行かない(29) ハがつくと限定の意となる …賓助

○故郷からハ∥雪の便りが来た(同) 処動文の主助、ハは限定義

○…江戸ハ神田の生れ|だってね(30) 無主の賓系文、ハで江戸を主位に引きあげ、よって江戸と神田と両方を各別に引きたてる。このハは接続詞‘の’と同義の特殊用法で江戸を主語に決定づけるものではない。

○わがハ弱点 梅がハ枝(36) 接続詞‘の’の文語形

○いい気になっていなさる／がハ内証は∥火の車|だ(41、雁五) が、副助
仮に‘背景’を[]の中に入れて見ると：

主語 述語

○[まちこがれた]春が∥来た(40) 主動文

○[銅鉄ではなく]金銀が∥大暴落(41) 同上

○[あの] 人が∥死ぬ(43) 同上

○[あの]マリリンモンローが∥デマジオと|結婚(41) 賓動文

○[そこで…] 末造が∥妙にハ笑った(42) 主動文

文の普通の主助はハだが、いま背景を意識して限定のガとなる

連用語

用修

○臨時費が嵩んだ／からハ今月／はハ送れない(39、明暗七)

○婆さんが云う／にはハ…(38、雁五)

○都合が悪け／ればハ会わずに帰される／だけ(42)

○用事がなく／てはハ話をしない。(同)

文中の部分(いま用修)に現われる小主の助詞は一般にガ。ハの前は用修；／の後は副助

形義論は、未知・既知・判断・題目などという語は用いない。

(5) 間投詞・終助詞

日本語は用途によって4つの文体に分けられる。平叙・疑問・命令(その否

定は禁止）・詠嘆。この4文体は文の基本構造とは分類の基準を異にするので、相互に抵触しないのは勿論、7つの基本構造にはそれぞれみなこの4文体が表われ得るのである。よって各種助詞はこの4文体について考えるのが適當であろう。

1) 平叙文

あらゆる文は用言(動・形・助動)の終止形で終止するので、平叙文は別に終助詞を必要としない。が親しい間柄の対話では往々終助詞や間投詞が現われる。

- ① 今日ネ、ぼくのサ、誕生日なんだヨ(田中429) …ヨ、終助詞
- ② 道子ヤ、早くおいで(同上) …ヤ、上例のネ、サ、間投助詞
- ③ 先生の御出身は、ああ、たしか、あのう、九州の方でしたねえ(同上)
- ④ この書類も、ええ、私の記憶では、そのう、去年の末のものと思いますが(同上)

③ ああ、あのう ④ ええ、そのう …間投詞

③ ねえ ④ が …終助詞

- あかね、僕はサ、年が明けたらネエ、一寸故郷に帰って来ようと思っているノ。…文末のノは終助詞、あかね 間投詞、サ、ネエ 間投助詞
間投詞は間(マ)をつなぐもので意味はない。コソアドのつくものが多い …
この・その・あの …

2) 疑問文

疑問文は自称(話し手)が対称(聞き手)に向っている時にしか成り立たない。が主語は、自称・対称・他称(人・物・事)みな可能である。問詞——カ・ノ

あらゆる文は、肯定・否定にかかわらず文末に問詞カまたはノを添加すれば、対称に返答を求める疑問文となる。このカ・ノを問詞という。文中に疑問の詞語があるときは、文末に問詞を欠くこともできるが、質問を確実にするためには、やはり問詞が必要。

- 君は 誰 ですか[カ] ○ これは 何 ですか[カ] ○ 君は どれ が | ほしい ノ [カ]
- 今から どの ころ に | 行く ノ …

ノはカより音が僅かに低く、それだけ問義が弱まり、コトバが柔くなるので、女性がより多く用いる。下例のカはみなノに替えることができる：

○僕(または彼)も || 行っていいですか。 主動文； も、並列の主助

～でも || 歌手に | なれますか。 賓系文； でも、謙退義の主助

丁寧語

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| ①美しいか 美しくないか
(美しいだろう) | 美しいですか 美しくありませんか
(美しいでしょう) …念を押す |
| ②行くか 行かないか
(行こうヨ) | 行きますか 行きませんか
(行きましょうヨ) …勧誘 |
| ③君のか 君のでないか
(君のだろう) | 君のですか 君のでないですか
(君のでしょう) …念を押す |
| ④本を読むか 読まないか
(読んでみたまえ) | 読みますか 読みませんか
(読んでみなさい) …勧誘 |
| ⑤机があるか がないか | がありますか ありませんか |

否定の疑問文は()内のように、勧誘・押念の肯定義に用いられることが、より多い。それが単なる否定の疑問かそれとも肯定の勧誘かは、強いて区分する必要はないと思うが、はっきりしたいというなら、背景(文面には出ていない)を考えるほかはない。

○お茶デモ飲みませんか。は‘飲みましょうか’—‘飲みましょうヨ’と全く同義に聞こえるが、否定疑問の方が僅かに婉曲にひびくもののように感じられる。

デモ、不確・謙退の賓助。ヨ、勧誘の終助詞。

疑惑を表わすカ []は、あってもなくてもいい語

○行くカ 行かないカ[は] || 君の自由 | だ。 …賓系文

○英語カ 数学カ[を] | 教えて下さい。 …無主の賓動文

独語(ひとりごと)に現われるものはみな疑惑

○菓子折でも | 持って、一寸頭を | 下げて来るカ。 …無主の連述文

でも、は七八行前の‘お茶でも’と同じ賓助

○今日はゝ疲れたからゝ風呂にでも | 入って、早寝するか。…無主の連述文

○僕も || 行って + 見ようかなあ。…主動文；かなあ、3音併せて疑惑の終助詞

3) 命令文 命令の否定は禁止

命令文の成立も、自称が対称に向っている時に限られる。主語は必ず対称だが、自明だから略されることが多い。強い命令である号令には主語は一切冠しない。

述語が用言の命令形であれば、そのまま命令文となる。

命令

禁止

○静かにしろ 静かにするな

にせよ 静かにしてはならない(はいけない)

○走れ 走ろ 走るな 走ってはならない(はいけない)

○犬に | なれ 犬に | なるな なってはならない(はいけない)

○酒を | 飲め 酒を | 飲むな 飲んではいけない(はいけない)

○机を | 置け 机を | 置くな 置いてはいけない(はいけない)

丁寧語

命令

禁止

願望

○静かにしなさい しなさるな にして下さい ししないで下さい

しては(なり)
(いけ)ません

○走りなさい 走りなさるな 走って下さい 走らないで下さい

走ってはなり(いけ)ません

○歌手になりなさい になりなさるな になって下さい ならないで下さい

になってはなり(いけ)ません

○飲みなさい 飲みなさるな 飲んで下さい 飲まないで下さい

飲んでではなり(いけ)ません

○机を | おきなさい おきなさるな おいて下さい おかないで下さい

おいてはなり(いけ)ません

禁止の助動詞‘な’は‘なかれ’が口語風に縮小した形であろう。

禁止の‘なりません’は‘いけません’と言い替えることができる。

いま丁寧の禁止を願望と呼び、表敬の助動詞‘下さい’（もと謙語）を添加したが、女性はさらに‘ませ’という終助詞を加えて、コトバを丁寧にすることが多い。——‘～下さいませ’——敬語。

強い命令（号令）禁止には、主語は一切付けず、終助詞も用いず、動詞・助動詞の命令形だけ：

○右を向け 前へ進め 前へ出ろ 止まれ …

ただ‘な’は禁止語気の助動詞だから禁止文にはそれを欠くことはできない：

○前へ出るな（出てはならぬ） 止まるな（止まってはならぬ）

走るな 休むな …

4) 詠嘆文（感嘆）

詠嘆文は一般に主表文で表現され、主語と述語を倒置することが多い。

	主語	述語（表語）	
○まあ	この花	ほんとにときれいだネ	（ナア、ワ・コト—女性）
	述語	主語	
○おお	寒い（暑い）	今日は	} 3例とも主語・述語を倒置
○まあ	早いコト	あのジェット機	
○なんとまあ	いたずらなんでしょう	あんたという子は	

まあ、おお、なんとまあ、…嘆声を表わす間投詞。

コト・ネ・ワは詠嘆語気の終助詞、多く女性が用いる。

○やったぞ！ ○あった、あった！（大野130）などは間投詞に類入してもいいのだろう。

8 無主文と背景

およそ文は主語と述語の配合によって構成されるものだから、理論上主語のない文はあり得ないのだが、言語の実際の運営面では、主語のない文、さらには賓語または動詞を欠くために述語の不完全なものが無数に現われる。このよ

うに主要語の配合の不完全な文を、形義論は一様に無主文という。

無主文はごく少数の挨拶語——こんにちは・ごめんなさい・さようなら・いらってきます・ありがとう・いらっしやい…の類を除いては、対話、命令文それから天候や自然現象の表現に最もよく現われるほか、格言・俚諺・掲示・スローガン・新聞雑誌の見出しの類は主要語の一部を略すのが通例である。

これらは主語がないのではなく、①汎称ゆえに主語を提示できない、②その必要がない、③自明である、④重複煩冗を避ける、などによって、たまたま略されているのであるということを銘記すべきである。

1) 対話では自称(わたくし)と対称(あなた)は自明だから、それを省略した無主文が最もよく現われる。(〔 〕内の語は実際には文面に出ない)

二人の学生が道で逢う

問：①〔君は 〕どこに | 行くの …主語を略す

答：②〔僕は 〕公園〔に | 行くの〕 …主語と動詞を略す

問：③君も 〓 行かないか …賓語を略す

答：④〔僕も 〕行く …主語と賓語を略す

この4文はどれも無主だが、なお完全な意味を表現できるのは、路上における二学生の対話という‘場’によるのである。また①③は②④の前文、②④は①③の後文だからである。

形義論は①②③④を、それぞれ無主文といい、無主文の成立を可能にする‘場’および前文・後文を併せて背景という(漢語では環境ともいう)。背景は一般に文面に現われない。

〇三上「象は鼻が長い」252頁は「日本語では、たんに‘行く’だけで十分のことが多い」というが、僕らはとらない。必ず背景を問う、問わねばならない。単に‘行く’は動詞という単語に過ぎず、文ではあり得ない。

〇岩波講座 日本語7 文法Ⅱ 428頁：『次の例の「ノ」は、イントネーションの助けをかりて、はじめて、特定の文法表現を成立させるものである。

①学校に行くノ。(平叙)文末を下降調に発音する

②学校に行くノ？(質問)文末を上昇調に発音する

③学校に行くノ！（命令）文末を強く発音する

…この種の終助詞「ノ」は文末イントネーションを伴うことによって、文表現の成立に参加するものということができる。」云々

この3文は主語が欠けているからまず主語を補って完全の文にしてみなければならぬ。

①僕は||学校に|行くノ。なら文末を上昇調に発音しなくとも、主語が自称だから、平叙文以外ではあり得ず、「自称が対称に向って」②君は||学校に|行くノ。と言え、文末が下降調であっても、なお質問文となり、「教師か父兄が、通学途上で遊んでいる子供たちに向って」③君たち||早く学校に行くノ。と言え、語調の如何にもかかわらず命令文となるだろう。

これによって主語の絶対性と、背景（いま「」の内）の重要さがわかると同時に、音声・語調・イントネーションはいかなる場合にも文法には全く関係がないことが理解されるだろう。

2) 汎称主語は誰・彼を指定することができないから無主文とならざるを得ない。例えば①助けて！②火事！（青講2—191、166頁）③犬！…という無主文が成り立つためには、必ず相応する背景が示されねばならない。①は突然危難に遭った人がいる。②は目前に火煙が立ちあがる。③は藪から急に犬がとび出す。というような背景が示されねばならない。

形義論文法には‘一語文’は存在しない。背景を問わずに一語文を認めれば、辞書に納められた幾千幾万の単語が全部文となり、語と文との区別ができなくなってしまう。

この背景論は逆に展開すると、主語を推定することができる。例えば④‘いるわ、いるわ、うようよいる’（青講2—132～138頁）。…これは述語が3つ並んだ無主文だが「うじ虫か何か、そこにもここにも沢山むらがつてうごめいている」場面が想像され、よってこの文の主語「～虫」が推定できる。また⑤「君はキツネか。僕は月見だ」では、二人の若者が、うどんやに入った場面が想像

される。よってそれが「君はキツネうどんを注文するのか、僕は月見うどんをたべるつもり」という意味の文の省略形であると理解される（2文とも賓動文）。

3) 標語・俚諺…なども泛称だから主語を欠くし、述語にも省略があるものが多い。

○禁煙 車中でガムかむな 芝生に入らぬこと …

○歳末たすけあい運動 スト決行中

○論より証拠 身から出たさび

新聞・雑誌の見出しなども同じ。…人質解放 平和憲法堅持 …

4) 天候・気象・自然現象の表現は発話者の現在する時・処について言っているに決まっていいて自明だから、主語を略するのが通例である。

① 雨だ 地震だ 雪がふっている 風が吹き出した …

これらは、もと無主の処動文だが、見たままに主動文としても差支えない：

○雨Ⅱだ 雪がⅡふっている 風がⅡ吹き出した …主動文

② おお寒[い] 暑いなあ …おお、間投詞 なあ、終助詞

話者の現在する時・処以外については当然主語を提示しなければならない。

○昨晚ㄥ京都にⅡ大雨が：ふった

○宮城県沖にⅡ地震が：あった ○富士にⅡ初雪が：ふった

○沖縄南方300キロにⅡ台風が：発生した …以上処動文

○御岳がⅡ突然ㄥ爆発した …主動文

5) 命令文は自称が対称に向っている時にだけ成り立つものだから一般に無主形である。書写には近頃は文末に！符をつけることが多い。

○右向け右。前へ進め。止まれ。礼(れい) …号令は必ず無主

○早く行けよ、遅れるぞ …相手を促す語気の終助詞

○あぶない！動くな …な、禁止の助動詞

○さあ、どうぞㄥおあがり[下さい] …丁寧の命令形＝願望

さあ、間投詞、どうぞㄥ表敬の用修、‘おあがり’は㊶食べものを召しあがる

⑥玄関から座敷へ通る、2つの意味があるが背景によって、どちらかに定まる。

無主文は完全文に復元せぬと、その構造形態——文法——はわからないが、背景を見、文義がまどまるか否かを考えれば、省略部分は誰にもすぐ復元できる。

ところが諸家の文法書で無主文法を講じたものが一つもないようである。「主語と述語が具備しないと文にならない」という根本基準を立てないからではないか。これでは文法を正確に把握することは到底できないだろう。例えば：

③ 三上「象は鼻が長い」30頁：④保証人は引受けない方針だ。

⑤ 松村「日本文法大辞典」319頁：⑥二階は人に貸した。

⑦ 時枝「～口語篇」222頁：⑧日曜は家です。

⑨ 来週の日曜日はうちにいます(三上49)

この3文は発話者(自称—私)または話題の人(他称—彼)の主語が略された無主文であるが、諸家がかつて無主文法を考究しないから、三氏はこのままで完全文であると錯覚しているのである。その文法解釈を誤るのは当然の成り行きと言わざるを得ない。

形義論は所与の文については、必ず主語と述語が具備しているか否かを見ると同時に、文義が貫通完結するか否かを問う。いまこの3文は、誰について言っているのか全くわからないから、文義の完通する独立文とは言えない。そこで主語を補って見ると次のようになる。(〔 〕内は省略されたと思われる主語)

④〔私は 〕保証人へ引受けない方針だ(である) … 賓系文

⑥〔彼は 〕二階へ・人に | 貸した … 双賓動詞による賓動文

‘保証人’は動詞‘引受ける’の賓語(目的語)、『二階』は動詞‘貸す’の賓語だから、通常なら‘保証人を引受ける’‘二階を貸す’とすべきだが、いま〔他の事なら兎も角〕保証人だけは、〔一階でも三階でもない〕二階は、と賓語を限定したために、賓格助詞ををはに替えたものである。よって④⑥のへは主格助詞ではなく、限定の賓格助詞であると、われわれは論定するのである。

岩波講座 日本語 文法Ⅱ 388頁：『〇国の交戦権へこれを認めない』のへも、上2例と全く同じ限定の賓助である。‘これを’と賓語を復指したのは、

文語流の強勢法に倣ったもの、普通の口語なら、○〔憲法はⅡ〕国の交戦権ハ
(ヲ) | 認めない。…賓動文 — ハは限定強調の賓助

◎〔私はⅡ〕日曜ハト家です(うちにいます) …主動文

‘時’や‘処’を表わす詞語は、文中では、一般に副詞すなわち連用語(用修)になる、ということをまず注意したい。

‘日曜’はもと名詞だが、いま文中で用修となるために、助詞ハを添加したもので、やはり〔週日ではなく〕日曜は、特指限定の意味を含んでいる。主語と賓語は主要語だから格助詞というが、副詞すなわち用修は、付加語だから、このハは格助詞と区別して副助詞(副助)という。言うまでもないことだが、この3文の主語は、㉔は〔私は〕、㉕は〔彼は〕、㉖は〔私は〕である。

文の構成成分を主要語と付加語に分けるというのは、形義論独自の方法だが、この方法によれば、格助詞と副助詞との区分も紛れなく明確となる。

また岩波—7文法Ⅱ 364頁：○食べ物_が欲しい(～を | 欲しい)。○母_が恋しい(母を | したう)。○肉よりも魚_が好きだ(魚を | 好む)。水_が飲みたい(水を | 飲む)。…のガは㉔㉕のハと同様、限定または特指の賓格助詞で主格助詞ではあり得ない。時枝誠記氏が「これを対象語(僕らの賓語)と名づけ、主語と区別した」のは合法である。

諸家は主要語と付加語とを区別しないし、主格助詞と賓格助詞、格助詞と副助詞との区分もはっきりしない。形義論は連体語(体修)や連用語(用修)には‘格’を認めないし、係助詞という用語は用いない。

いま上掲、岩波の諸例に主語を補ってみると、次のようになる：

主語	述語	
○〔私はⅡ〕	食べ物 _が 欲しい	○〔私はⅡ〕水 _が 飲みたい
	賓語	他動詞

○〔彼はⅡ〕肉よりも魚_が | 好きだ ○〔私はⅡ〕母_が | 恋しい

(繰り返すが一つの独立文は必ず主語と述語の配合によって成立)

4例とも賓動文となり、このガが主助ではなく賓助であることが紛れなく明瞭となる。主助は〔Ⅱ〕内の‘は’。

普通なら、物ヲ・母ヲ・魚ヲ・水ヲ、とすべきだが、いま限定という背景を意識して、賓格助詞ヲをガに替えたに過ぎない。

ここでもし仮に、ハ・モを用いれば次のようになる：

- | | |
|--------------------------------|--------|
| ○〔私は Ⅱ〕食べ物ハ 欲しいが、飲み物ハ いない。 | } 対抗表現 |
| ○〔彼は Ⅱ〕肉ハ 好きだが、魚ハ きらい。 | |
| ○〔彼は Ⅱ〕肉モ 好きだが、魚モ 好き。 | } 並列表現 |
| ○〔私は Ⅱ〕食べ物モ 欲しいが、水モ 飲みたい。 | |

4 例のハ・モともに賓格助詞で、主助ではない。

諸家は例えば格助詞——ハ・ガ … ニ・ヲ … などを取り出し、それによって、句文の格を定めるようだが、われわれの方法は諸家とは逆である。まず文の構造形態を見る。主要語——主語・述語の‘あり方’によって格助詞（主助と賓助）が定まり、付加語（主なるものは連体語と連用語）の‘あり方’によって副助詞が定まるのである。

前掲諸例文の〔私は Ⅱ〕〔彼は Ⅱ〕のハは普通（普遍に通用する）の主格助詞である。

処動文の一部を除き、あらゆる独立文の主格助詞はすべて‘ハ’であり、何らかの背景を踏えた時に‘ガ’になる。このことは表Ⅱの諸例文を回顧すれば容易に理解されるだろう。

格助や副助については付加成分の当該項ですでに詳述してある。

以上によって無主文法の重要さが理解されたと思う。無主文法を究明することなくしては④⑤⑥に現われた助詞ハ（は）が、主格助詞か賓格助詞か、それとも副助詞かさえも論定できなくなってしまう。

奥津「生成日本文法論」4 頁：

『“私は 水が 飲みたい”の深層構造はおおむね次のような補文構造と考えられる（構造分析のマッピングは省略）

“私が 私が 水を 飲む”という補文が「私が S たい」という主文の S のところに埋めこまれていて、いわゆる述語補文構造となっている…』云々

いまわれわれにとっては、“水が”が“水を”と同等の賓語であるということ

を確かめればいいのである。

“私が 私が～”というような奇怪な、正常でない人工言語を媒介しなければ説明できないような文法論には疑惑不信を禁じ得ない。

言語は、そこに書かれた(または話された)文の意味しか表わさない。それ以上でも以下でもない。文・文法を変形すれば原有の文法は結局解明できなくなるだろう。N. チュムスキーが、深層構造・変形文法に横すべりしたのは、文法論の方法の難しさを如実に示しているもののように思われる。

諸家の文法書は、何のこたわりもなく、無造作に無主文例を無数に引用収録しているが、僕らはここでは、ただ「無主文はそのままでは文法論の対象にはなり得ない」というにとどめる。

以上が形義論による日本語文法の全貌である。要約すると：

1. 形態上主語と述語が具備すると、意味がよく通りよくまとまる。そういう言語単位を文という。言語の最小単位である。
2. あらゆる文法は文の構造形態の裡で定まる。
3. 文の構成成分を、必須不可欠 obligatory の要件——主要成分(主要語)と、加否自在 optional の付加成分(付加語)に分ける。主語・述語は主要語であり、その他はすべて付加語。
4. 主要語だけの構造形態によって基本文型を類別すると、日本語の単文の表現文型は全部で7型2式、ほかに複文6型、計15、みな生成性 generative である。生成性でないものは文法というに値しない。
5. 付加成分は文の形態を繁長に意味を複雑多様に潤色するが、循環性 recursiveness であり、その有無または多少は、基本文型の構成にはいかなる影響変化を与えるものではない。日本語では8種ばかり。(分類の仕方で一、二の出入がある)
6. 生成性の基本文型15形に、循環性の8種の付加語が添着することにより、日本語という複雑多様な言語表現が‘無限多’に生成されるのである。
7. ただ日常の言語運営の面では、無主文が無数に現われるから、無主文法は必ず究明しなければならない。

かく文法体系が整備されれば、各項細目にわたるあらゆる文法・それから方言、さらに比較文法なども、この体系の裡で始めて合理的に探究されるだろう。

9 比較言語について

いま世界には三千余の個別言語があるというが、形義論の方法——文の構成成分を主要語と付加語に分け、主語・述語だけの配合形態によって基本文型を類別抽出する——によれば、比較的容易に各個別言語の基本文型を探索抽出することができるだろう。日本語・漢語の実験からその数は単文で10内外と推測されるが、各個別言語の基本文型を対比照合すれば、比較言語学は、音韻の分野を除き、構造と意味に関する限り自然に成立するのでないだろう。

日漢言語の比較

日 語	漢 語
(1)主表構造	(1)主表構造
(2)主動構造	(2)主動構造
(3)賓系構造	(3)系賓構造
(4)賓動構造	(4)動賓構造—▽変隔式
(5)処動構造	(5)処動構造
(6)△使動式) 必ず助動	(6)使動構造(自動詞でありながら賓語をとる)
(7)△受動式) 詞が添着	(7)受動構造(他動詞でありながら賓語がない)

(8)通述構造	(8)通述構造
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <div style="text-align: right;">▽致使式(使役)</div> <div style="text-align: right;">▽被動式(受身)</div> <div style="text-align: right;">(兼語式)</div> <div style="text-align: right;">▽処置式(一部使役)</div> </div> </div>

(9)連述構造	(9)連述構造
---------	---------

7 構造 2 式 = 9

(構造から派生した変式を式という)

△印の 2 式は漢語にはない

9 構造 4 式 = 13

▽印の 4 式は日語にはない

(A) (3)(4)(5)以下(9)まで、述語が賓語と動詞配合のものは、賓・動の位置の前

後が、日漢ではちょうど逆である（英語も同然）。これが日漢言語の相異を決定的にする。漢語の訓読に「返り点」が必要なのはそのため。

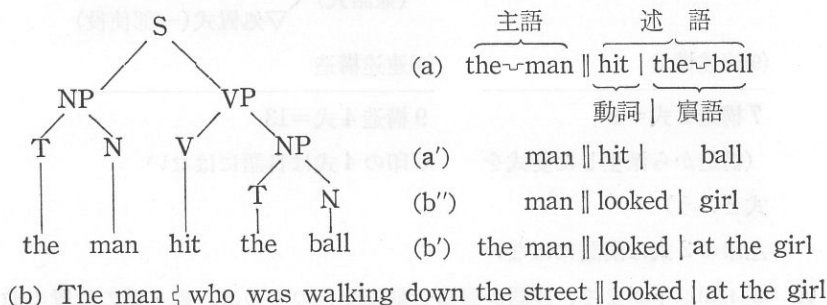
(B) 漢語には ①格助詞がない。②用言に活用がない。③助動詞は漢語ではその数が限られ、用言に前接するが、日語では後着し、その数が多い。④その他の付加語は漢語には少なく、日語には多い。訓読に「送りがな」が必要なのは、そのためであり、漢語は日語ほど繊細な表現に耐えない。

(C) 世界3千の個別言語についても、その基本文型は、構造形態も、その数も日・漢語と極めて近似したものと推測される。人類の生活が似ている以上は、

生成変形文法との相異

1. どの言語でもその言語の固有する基本文型 (base pattern) を抽出網羅しなければ、その言語の文法は解明できないと思われるのに、生成変形文法はそれをしていない。
2. 文法は構造形態と意義との対応の上に成立するもので、音声とは徹頭徹尾無関係。
3. 言語はそこに書かれたまたは話された文の意味しか表現しない。それ以上でも以下でもない。所与の文のほかに深層とか表層などというものはあり得ない。文・文法は絶対に「変形」することは許されない。
4. 分析符号 形義論は || で主述を分け、| で述語中の動詞と賓語を分ける。どんなに繁長な文でも、主要語——主語・述語の配合形態はこの2符で分析処理される。

一列に横に長くつづく文は mapping や tree で分析すべきでない。



↳ leaning out of the third-floor window of the Wrigley Building.

（「変形文法」9頁）（↳符の右は、その前の名詞—man と girl—を説明する補語）

（a'）は（a）から、（b'）は（b）から主要語だけの構造形態を取り出したものだが、ともに述語が‘Vt | O’の配合だから（a）（a'）も、（b）（b'）（b''）も等しく動賓構造（base pattern の一つ）と形義論は認定するのである。連体語（形容詞性で、冠詞 a, the, を含む）、連用語（副詞性で補語を含む）、前置詞（at など）などは付加成分であり、時制（tence）、性別（gender）、単複の区分などとともに、主要語の base pattern とは別のレベルで考究する。

言語の系統

どの個別言語にも有限僅少（精々10内外）の固有の基本文型（base pattern）があるはずだから、形義論の開発した方法によって、まずそれを抽出し、それを他の言語と対比照合して見れば、その相同相異の部位が明らかとなり、よってその言語の系統を定めることができるだろう。例如：

左		右	
日語(1) 飯 を 食べる	… (1)吃 飯 …	漢語	
韓語	… eat meal …	英語	
日 (2) 水 を 飲 む	… (2)飲(喝) 水 …	漢	
韓	… drink water …	英	
日(3)私は 学生で ある	… (3) I am a student …	英	
韓Nanun <u>Haksen</u> ida	… 我 <u>是</u> <u>学生</u> …	漢	
(賓語)(助詞) (動詞)	(動詞) (賓語)		

左は日本語と朝鮮語

右は漢語と英語

賓語が前、動詞が後 } ……相異…… { 動詞が前、賓語が後
格助詞がある } { 格助詞がない

以上の実験で左と右の文法の相異が明瞭になった。即ち：

A. 主要語

賓語と動詞は主要語であるが、日本・朝鮮では、その語順は‘賓語 | 動詞’であるのに対し、漢語と英語は反対である→ ‘動詞 | 賓語’。

主要語の語順が正反対であるということは言語系統の相異を決定づけるものでないだろうか。

B 付加語

‘私は’…は } は・を、僕らは格助詞というが、
 ‘飯を’…を } 日本語・朝鮮語にはそれがあり、
 ‘水を’…を } 漢語・英語にはそれがない。

ここには例文は出ていないが、日・鮮では助動詞は動詞の後にづくが、漢・英では動詞の前に置かれる。

このように文中における主要語・付加語の順位——文法が同じいという事実から、日本語と朝鮮語とは同一系統であり、漢語・英語とは系統が異なる、と断定できる。

なおモンゴル語も文法は日語・韓語と酷似しているということだから、やはり日・鮮と同系であろう。

言語の同系は民族の同系にも重要なつながりをもつものであろうから‘文法’の担う意義の重大さを今更痛感せざるを得ない。

近頃学界の一部でタミル語の系統を問題にしているようだが、形義論の方法によってタミル語の文法を究明すればその系統は立ちどころに判明するだろう。

文法は音声、音韻とは始めから無関係である。たまたま二つの個別言語で、音韻に似たものがあるからとて、文法にはかかわりのないことだから、別に文法の相同相異を究わめないと言語の系統はわからないのではないか。

日本語の文法体系

文は主語と述語の配合によって成立するものだが、その配合の仕方——構造形態によって、日本語は単文で7構造2式、複文で6構造計15形、付加成分8種とが、文法の全部だから、両者を併せたものを文法体系という。

一主語と一述語の配合に成るものを単述文、一主語の下に複数述語の配合するものを複述文という。複述構造には複数の述語がただ並列するだけのものと、いわゆる兼語を中軸として前述語と後述語が通結するものがある。前者を連述文、後者を通述文というが、連述文には通述形の述語が現われるものがあるから、やや煩雑な通述を先に、連述を後に考究したのである。

日本語文法の全貌を理解するためには、多くの自然言語（実質は表Ⅱ、表Ⅲを綜合したもの——だから、この2表と重複する部分が非常に多い）を列举するばかりではないが、それには基本構造(文型)ごとに類別するのが妥当であろう。

言語表現の文例は無限多であるが、主要語の配合に成る基本文型は生成性(generative)であり、付加成分は循環性(recursiveness)であるから、挙列が‘有限僅少’であっても、十分に‘無限多’を類推できるはずである。

分析符号

主要成分… ‖ 主語と述語を分ける(小主には：)

| 述語中で賓語と動詞を分ける(双賓は・で前後を分ける)

主要語の構造はこの2符で処理できるほど簡単であるということをまず注意したい(だから幼児も無意識の裡にそれを体得して、自由に話ができるのである)

‖ :の前の助詞は主格助詞、・ |の前の助詞は賓格助詞

付加成分… 〰の前は連体語、〵の前は連用語または接続詞

十の後は助動詞、ノの後は副助詞

符号は文の構造形態を明確にするために臨時に添加するものだから、例文を読むときは、すべて無視度外しなければならない。また煩わしいから重要でない符号は、往々省略する。

基本構造

単述文…5構造2式

- | | | | |
|--------|--------------|--------------|----------|
| | | 主語 | 述語 |
| | | ┌──────────┐ | |
| 1.主表構造 | 形容詞性述語を表語という | 主語 | 表語 |
| 2.主動構造 | 述語が自動詞 | 主語 | 自動詞 |
| 3.賓系構造 | 述語が賓語と系詞 | 主語 | 賓語 系詞 |
| 4.賓動構造 | 述語が賓語と動詞 | 主語 | 賓語 他動詞 |
| 5.処動構造 | 述語は賓語と動詞だが、 | 主語 | 賓語 動詞 |
| | 主語が‘処’または‘時’ | (処・時) | (自・他動) |
- 6.使動式…主語は必ず‘施事’（はたらきかけるもの）
- 7.受動式…主語は必ず‘受事’（はたらきかけられるもの）

複述文…2構造

- | | | | |
|--------|------------------|--------------|------------------|
| | | 前述 | 後述 |
| | | ┌──────────┐ | |
| 8.通述構造 | 兼語を軸にして前述と後述が通結… | 主語 | （賓・主兼語
賓・賓兼語） |
| 9.連述構造 | 複数述語が並列する… | 主語 | 述語、述語、述語、… |
- (1) 自然言語には無主形が無数にあり、どの文型に分類すべきか判別し難いものが往々あるが、所詮この5型をはみ出るものはない。
- (2) 主語と述語、賓語と動詞がその位置が前後逆になるものがあるが、それらは倒置形として処理される。
- (3) それぞれにぴったり当てはまるような自然言語は多くはないから、単文例に複述文や複文を引用することがあるのは已むを得ない。
- (4) その他いろいろの疑惑は、その都度例文について解説する。

(1) 主表構造

	述語
	┌──┐
主語と表語の配合	主語 表語

形容詞性述語は動詞述語と区別して表語という。

○花は || 美しい(表Ⅱ)

○吉野山の桜の花は || ことのほか美しかった(表Ⅲ)

○海は || 静かだ ○館山湾は || 外海に比べるとたいへん静かだ(表Ⅲ)

○彼は || 小柄だ ○雪は || 白い(田中388)

- 言わぬが 〓 花 ○万一失敗すると 〓 大変だ(表Ⅱ)(田中421)
- 地球は 〓 丸い(大野35) ○広いことは 〓 広い(大野32)
- 勉強は 〓 大切です(同66) ○私の買った本は 〓 良かった(同172)
- 象は 〓 大きい
- この構造には述語が主表形のものが少なくない。
- 象は 〓 鼻が：長い(三上16, 9)(表Ⅱ) 句中の部分の小主語には：符
- 東京は 〓 人口が：多い ○京都は 〓 秋が：いい(三上52)
- 日本の首都東京は 〓 世界中どの都市よりも人口が：多いという(表Ⅲ)
- 彼は 〓 背が：高い(走るのが：早い、頭が：わるい、字が：上手だ、作文が：下手、気が：やさしい、柔道が：強い、給与が：安い(高い)、…
数学が：できる、… 英語が：うまい、… …)(表Ⅱ)
- 桃太郎は 〓 気は：やさしくて、力もち(田中416) 2 表語の連述文
- 鯛は 〓 明石沖でとれたのが：最上だ(三上72)
- あの映画 〓 くだらない+ったらありゃしない(田中389)
- それなのに貞世は 〓 段々+よくな+って行っている(品・鈴木113、有島)
- この窓は 〓 あけ+られない(品・西尾132)
- 友だちがこなくて 〓 さびしい(同上)
- きょうは 〓 寒くない(同133) ○路上で遊ばせなければ 〓 安全だ(同左)
- くやしきなんか 〓 ないさ(同上) さ、終助詞
- 柚木が 〓 肩が：悪い+そうだ／から、今日はやはり武末じゃ 〓 ないかな
(品・桜井153) ／から、副助詞、かな、は疑惑の終助詞
- 沖縄は 〓 木の成長が：早い(大野28) } 象は 〓 鼻が：長い、と同構
- 沖縄の木は 〓 成長が：早い(同上) }
- 沖縄の木の+成長は 〓 早い(同上)…象の鼻は 〓 長い、と同構
- からふと犬は 〓 かわいそうな事をしました(三上9)
- それなのに貞世は 〓 段々+よくな+って行っている(品助113、有島)

これは主動文と見ることもできる。

(2) 主動構造

主語と自動詞の配合

述語
主語 || 自動詞

- 木の葉が || 落ちる(表Ⅱ)
- 秋になる\とと木の葉が || はらはらと落ちて+くる(表Ⅲ)
- 太郎は || 立つ(坐る、歩く、… 勉強する、遊ぶ、…)
- 家は || 焼け+なかった(言語3—21)
- 梅の花が || 咲いた(時枝、表Ⅱ)
- Aは || 失敗した(成功する、落胆する、勉強する、寝る、笑いこける、…)
- Bは || ゴルフする(野球する、ブランコする、おしっこする、…)
- まだ残雪がある／のにと庭の梅が || ちらほらと咲き+出した(表Ⅲ)
- 暑すぎる／せいかと葉が || しおれて+きた(田中415)
- 坂は || 照る照る、鈴鹿は || 曇る(三上113) 2 主動文から成る複文
- 〔彼は || 〕下腹が痛くて+一日と寝て+いた(田中411)(表Ⅱ) 無主文
〔 〕の内は省略語を仮に補ったもの、原文にはない。用修中の小主助はガ
- 春が || 来た、どこに | 来た(三上113) 2 主動述語から成る連述文
- 悪いことは || するな(田中338) な、禁止の助動詞
- これは || まいった(同上) ○嘘は || いつかは+ばれる(同388)
- 今日は+少し調子が狂ったので+晩の実験は || 止めだ(品・鈴木119、漱石)
- 万物は || 流転する(大野57)
- 光が || ピカピカと光る(大野68) ピカリ／とと光った。… /と、副助詞
述語が主動文のもの
- 花は || 彼が : 折った+にちがいない(言語3—5) 小主助詞はガ
- 太郎は || 腹が : 立った(同—24) …腹が立つ、癢にさわる、などは、一つの
連合動詞と見る方がより合法であろう——太郎は || 腹が立った。…主動文
- 一晩中 || 雨が : やまな+かった(品・西尾132)
- 岡田の日日の散歩は || 大抵と道筋が : きまっていた(大野45、雁一)
- 雨が || ふる。——(助動詞は付加語だから、累加されても、主動構造という
文型は変らない。この関係は他の構造についても同じ)。
- 雨は || ふら+ない+だろう(+かもしれない、と思う)

- 雨が 〓 ふり＋そうだ(そうもない、そんな空)
 ○雨が 〓 ふる＋そうだ(伝聞) (という、+かも知れぬ、ことはあるまい)

(3) 賓系構造

述語は賓語と系詞動詞の配合… 主語 〓 述語 〓 系詞… 主要語は3つ。

系詞は、主語と賓語とが同等または同格であることを表わす特殊な動詞である、よってこの構造では文法上主語と賓語とを入れ替えてできる。

- 吾輩は 〓 猫で 〓 ある(だ、である)(大野25)…猫は 〓 吾輩で 〓 ある
 ○吾輩こそ 〓 [は] 〓 漱石の小説に出てくる 〓 あ の 〓 猫で 〓 あるぞ(表Ⅲ)
 ぞ、確認を逼る終助詞。こそは、特指強調の主格助詞
 ○彼は 〓 三年前／から 〓 郷里の小学校／で 〓 教員を 〓 して(やって) 〓 いる(表Ⅲ)
 ○東京は 〓 日本の首都で 〓 ある
 ○文法論は 〓 言語学とは 〓 ちがう(異なる、同じ、等しい、似ている、…)
 ○鯨は 〓 けもの 〓 だ(三上112) ○社長は 〓 どなた 〓 ですか(田中390)
 ○鯨は 〓 魚 〓 では 〓 ない(同上) ○どちらが 〓 社長さん 〓 ですか(同上)
 ○塩は 〓 海水で(から) 〓 作られる(田中375) ○酒は 〓 米から(で) 〓 作る
 ○カゼから 〓 肺炎に 〓 なる(田中377)
 ○話の行き違から 〓 誤解が 〓 生じる(同上) が、賓格助詞
 ○カゼをひいたのは 〓 寝冷したから 〓 だ(同414)
 ○あいつは 〓 よく食うし、よく働く 〓 男 〓 だ(同408)
 ○オレは 〓 東京は神田の生れ 〓 だ。…東京の神の 〓 ～ではあまりに平板、の 〓 重複は耳ざわり、東京は 〓 と言うと、東京と神田と両方が各別にきわだつ
 ○あの子は 〓 一寸も 〓 親に 〓 似ない(金田一16)
 ○完成することこそが 〓 恩に報いる 〓 道 〓 だ(田中389)

- 主語 〓 述語 〓 主語 〓 述語 〓 主語
 ○欲しいものは 〓 資料 〓 だ → 倒置形 ○資料 〓 だ 〓 欲しいものは(大野109)

‘資料’が文首に倒置し強調される。この構造では賓・主はもともと同格

- 主語 〓 賓語 〓 系詞
 ○東京から大阪まで 〓 三時間を 〓 要する (金田一22頁は‘要する’を他動詞から

ぬ他動詞という）〔 〕は原文には略されたと思われる語。

○電車だってバスだってト〔そこまで〕一時間は | かかる(田中396)

○〔そこまで〕歩いてもう三十分と | かから+ない(田中380)

○人間でありながらトその振舞は || 畜生に | 劣る(金田-16)

○Aの体格は || Bより(に) | 優る(劣る)

‘その振舞’は‘畜生のそれ’と同格。‘Aの体格’は‘Bのそれ’と同格だから‘劣る’‘優る’はいま系詞と認めざるを得ない。

○5に5を足すと || 10〔 〕 ○9・9 || 81〔 〕 ○言わぬが || 花〔 〕(田中366)

○花も嵐も踏み越えて行くのが || 男の生きる道〔 〕(田中366)

〔 〕はいま系詞が略された無主文と見たのであるが、10・81・花・男の生きる道、を表語と見なせば主表文となる

○住民の多くは || 失業中 | だ(田中388) ○鯨は || 哺乳類 | である(同左)

○ワタシは || 彼女の結婚のナカウドを | した(三上108)

○Aは || B | だ ○兄きは || 俺のカタキ | だ(品・鈴木117、三好十郎)

○今度は || これ | だ ○だけど(接続詞)ト遅刻は || 遅刻 | だ(品)

○依子は || 自分を除いてトあらゆるスキャンダルを信ずる性質 | なので…

(品・三島)

○フィフティは || がっしりした〜大きな〜男 | だ(品・鈴木117、石原)

○あの人は || キーツ | だ(同、外山)

○十月といっ／たらト山は || 冬 | です() | です、らしい(品・桜井166)

○そいつは || すばらしいト奴 | なんだ(奴 | だ、奴 | らしい)(品・鈴木124)

○友ちゃんは || 友ちゃん | だし、君は || 君 | だ(品・鈴木120、三好) 複文

○どうせト日本人は || 日本人 | だ(大野32) ○バカは || バカ | だ(同左)

○私が || 大野 | です→大野は || 私 | です(同24) …「背景」を意識して「私が〜」

○二掛ける三は || 六 | である ○おのれは || 悪いやつ | だ(大野78)

○向こうから来る〜男は || 学生 | らしい(品・桜井166) 学生 | だ、である、だ +ろう

○まあ聞きわけのない児 | だこと。仕方がない。(品助113、有島) 無主文
間投詞 間投語 こと、咏歎の終助詞。

述語が賓系文のもの（小主ガ：～）

○彼女の婚礼は || わたしが：なかうどを | した(三上108)
○昔は || 京都が：都で | あった
○カキ料理は || 広島が：本場 | です(三上162)
○鈴木大拙は || 金沢が：郷里で | ある(同231)
○誰しも || 故郷は：なつかしいもの | だ(田中395) は、限定の小主助

} (表Ⅱ)

(4) 賓動構造

述 語

述語が賓語と他動詞の配合…

主語 || 賓語 | 他動詞 …主要語は3つ

○太郎は || 学校に | 行く(表Ⅱ) ○本は || 机の上に | ある(三上234)(表Ⅱ)
○お隣の〰太郎は || 毎朝八時に〰次郎と一緒に〰学校に | 行きます(表Ⅲ)
○君のさがしている〰英語の〰本は || あの机の上に | ある+じゃないか(〳)
○授業が終った／ら〰僕は || 廊下で〰Bを・Aに | 紹介する+つもりだった(〳)
これは賓語が2つ、その位置の前後に定位はない

「倒賓形の賓動文の」賓語句

主語

情意動詞

○この申出を | Aは || きっと〰承知する+だろうと | Bは || 期待して+いた
長い賓語を明確にするために、いま主語の前に倒置した形。この構造には倒置形は珍しくない。‘期待する’は情動。(表Ⅲ)

①父は || この本を | 買ってくれました(三上9) } ①主・賓を倒置した形が①。
②この本は | 父が || 買ってくれました (同上) } はは限定特指の賓助。

○新聞は | さっき〰給仕が || 片づけたようです(三上165) 主賓倒置
はは限定の賓助、がは限定特指の主助

○芭蕉は || 義仲が | 好きだった(三上201、小林秀雄) がは限定の賓助
○〔ハ || 〕酒が | 飲み+たい(大野174) } 無主の賓動文で、がは限定の賓格助詞で、
○〔 〕水が | 飲み+たい(同176、7) } △桜が || 咲いた。(主動文) △私が ||
大野 | です。(賓系文)のがが主格助詞であるのと厳しく区別しなければなら
ない。こういう誤解は文型を抽出しない限り免れないだろう。文型を出せば、

∥：の左は主格助詞、・の左は賓格助詞であり、一見ただけで中学生も誤ることはないだろう。

○〔 ∥ 〕あまりに旅に | 出し + たくはない(田中388) 無主文

○大根は ∥ はっぱを | 棄てます(国研Ⅱ—106) ○昼は ∥ 何を | たべますか

○甲は ∥ 乙に・丙を | 紹介した(三上237) …双賓…丙を・乙に | 紹介する

○xは ∥ zに・yを | 与える(同207) …yを・zに | 与える

○〔 ∥ 〕ヨーロッパへ・石油を | 送る(田中) 無主文

○太郎は ∥ 花子から・英語を | 教わる(国研Ⅱ—130) 上4例は双賓

○津田は ∥ わが門前に立っている一細君の姿を | 認めた(大野36、明暗)

○五月六日に、武原はんさんの地唄舞を | 見 + た(大野—129) 無主賓動文

○新聞は ∥ 何新聞を | お読みですか(三上) } 3例は賓主が同格だか

○ねくたいは ∥ 青い方に | なさいますか(同上) } ら賓系文と見てもいい。

○辞書は ∥ なるべく新しいのを | 買ったまえ(同上) } もし対称主語の省略と

見れば〔君は ∥ 〕新聞は：何新聞を | ～。となり、新聞へ、ねくたいへ、辞書へ、は動賓文の述語に現われた小主語となる。へは限定の小主助。

用言を含む長い句文を賓語にとるものを情意動詞というが、情動とて勿論単語を賓語にとることができる。

○私は ∥ 単元には六種類あると | こういふふうにと考えています(国研Ⅱ—123)

○彼は ∥ 自分を秀才だと | 考えた(同上128) 自分を秀才だ、は賓系文

○彼は ∥ 中国が‘地大物博’なのを | 今度始めて、知った。…知る、情動

○「でも、伯父さまは、恋愛している者の気持はおわかりにならないわ」 | り
つ子は ∥ 言った(三上259、井上靖) 「 」内が賓語、長いからいま文首に倒置したのである。‘言う’情動

○リンゴの落ちるのを見て、ニュートンは ∥ 地球の引力を | 発見した。

○金をためて外国へ留学しようと | 彼は ∥ 考えた(思う、話す、言う、計画する…)

○故郷を | 思う ○中国語を | 話す ○文法の方法を | 見つけた

賓動文はよく用いられる文型だが、述語が賓動形のは多くは見当らない。

○うちでは 〓 大根は：はっぱも | 食べます

○これらの設備は 〓 事故の責任は | 業者が：負うことになる(三上110)

責任は・、は限定特指の賓助。

(5) 処動構造

述語は賓動形だが、主語が‘処’

主語 $\left(\begin{array}{c} \text{処} \\ \cdot \\ \text{時} \end{array} \right) = \overbrace{\left(\begin{array}{c} \text{小主} \\ \cdot \\ \text{賓語} \end{array} \right)}^{\text{述語}} \text{動詞}$

(または‘時’)というのが特徴

〓 : の左の助詞は主格助詞

表Ⅱ(5)処動文でこの構造の絶対性は解説済みである。

①あそこに 〓 机が：ある

○あその納屋に 〓 父が長い間使いふるした机 $\left(\begin{array}{c} \text{が} \\ \cdot \\ \text{を} \end{array} \right) \left\{ \begin{array}{c} \text{が} \\ \cdot \\ \text{を} \end{array} \right\}$ おいて+ある

②机の上に 〓 本が：ある(三上264) がある、自動詞

○バラの木に 〓 とげが：ある(同261)

○わたしには 〓 妻も子も：ない(同上) …わたしの身辺という場所

○大丈夫です。わたしに 〓 名案が：あるんです(同上)

‘存在文’に対する批判は表Ⅱ(5)処動文を参照

○東京には 〓 中央官庁が：集中している

○瓢箪から 〓 駒が：出る(三上18) から、主格助詞

○花に 〓 虫が：つく(同上)

○少年の体は 〓 枯草の匂いが：漂っていた(同37)

○去年ト姉は 〓 子どもが：できた(同36) 姉の身辺という場所

○先年ト仙台に 〓 地震が：あった。…この文で‘仙台’という場所主語を度外すると‘先年地震があった’で文義不通となる事実により、場所詞が絶対必須の主語であることが確認されるし、文中に現われる時間詞(先年、去年、など)は一般に用修であり、主語になり得ないことがわかる。

○今年もト池に 〓 水蓮が：咲いた(林四郎235)(表Ⅱ)

○昨夜ト京都には 〓 大雨が：ふった

○西山の端に 〓 太陽が：沈んでいった

○砂漠地帯から 〓 石油が：湧きでる

○朝顔には 〓 赤いのや青いのや白いのが：ある(田中404)

○〔～には Ⅱ〕学校や病院や市役所が：建っています(同上) 無主文

や、は名詞を各別につなぐ接続詞

○故郷からは Ⅱ 雪の便りが：来た(大野29)

○あれには Ⅱ いわくが：ある+んだ(同64)

○〔 Ⅱ〕本が：ある(大野99) 無主の処動文 この項の初めに在る②のように‘場所’を主語に置かないと意味の完通する文にならない。

表Ⅱですでに言及したように処動構造では、文首に時間と場所と2語があるときは、当然‘所’が主語となるが、‘所’がなく‘時’だけのときは、今度は‘時’が直ちに主語となるのである。

○きのう(時)は Ⅱ 大風が：吹いた(三上9)

○四月一日から Ⅱ 新学年が始まる

○第二次世界大戦では Ⅱ 数百万の若者が：戦死した

述語が処動文のもの

○あの学校は Ⅱ 屋上に Ⅱ 望遠鏡が：据えてある(三上110) 屋上は学校の部分

○中国の大平原では Ⅱ 地平線上に Ⅱ 太陽が：沈む。 …地平線は平原の属性

この構造で注意されることは (1)全文の主語は一般に‘場所’だから、その助詞はニ・ニハが圧倒的に多く、カラ・ハは少ない (2)小主語の助詞は99%までが。

分析符号ですでに指摘した通り、全例文を通じ、Ⅱ：の前は主格助詞、・ | の前は賓格助詞。これは複述文、複文においても変わらない。

2つの変式

日本語では単述文としては上掲5文型しか考えられないが、言語の実際の運営面では、さらに使役・受身の表現形式を立てる必要がある。しかし日本語では使・受の表現は、助動詞の添加による以外に方法がないが、助動詞はあらゆる用言に添着するものであるから、5文型の主要用言をも、使役または受身に変えることができる：

主要用言

使役助動詞

受身助動詞

さす、させる

らる、られる、させられる

美しい

美しくさせる

美しくさせられる

落ちる

落とさせる

落とされる 落とさせられる

猫になる

猫にならせる

ならされる ならさせられる

学校に行く

行かす 行かせる

行かされる 行かさせられる

本をおく

おかす おかせる

おかされる おかさせられる

だから使役・受身を、さきの5文型と対等に立てることはできないから、暫く便宜処置として使動式・受動式という2つの変式を立てるのである。

(6) 使動式

述 語

主語(施事) || 賓語 | 使役義用言

述語用言に使役助動詞‘さす、させる’が添着して使役義となるもの。この構造では主語は常に施事(はたらきかける主体)であり、一般に双賓を承けるが三賓の場合もある。

○山野君が || お嬢さんに・ポスターを | かかせる(言3—28) …双賓語

○母親が || 子供に・道を | 歩かせる(国研Ⅱ—167)

○花子が || 太郎に・次郎を | しからせる(同上)

○次郎は || 太郎に・郵便局に・金を | あずけさせる(同上131) …3 賓語

○Aが || Bをして・Cに・Dを | 見せさせる(三上150) …3 賓語

以上はみな賓動文の使動式

○彼は || むす子に・あととりに | ならせた(国研Ⅱ—129) …賓系形の使動式

○Aさんは || この子供に退屈させまいと | 気を使っている(三上189) …賓動文

賓語句が使動式

情動

○～学生に | 練習させる(赤5—191)

～学校に | 行かせる (赤3—200)

～気分を | 落着かせる(赤5—204)

～気分を | 養わせる (同上)

～落着いて | 読ませる(同上)

昭和40年3月明治書院「国語文法講座」(赤表紙—5)が、後3例を「規範的には文法上の誤り」というのは、どういうことか僕にはわからない。仮に使役助動詞を消去すれば、ただの他動詞となるだけ：

気分が：落着く 気分を | 養う 落着いて | 読む
使役助動詞はあらゆる用言に添着するからその例文は無数。

(7) 受動式

述 語

主語(受事) || { 自動詞+受身助動詞
 | 賓語 | 受身用言

述語用言に受身助動詞らる、られる、させられる、が添着して受身義となる。

主語は常に受事(はたらきかけられる主体)であるのが特徴。

- 川野が || 大野に | つぎとばされた(言3—28)
- Cは || Bに | 殺された(三上235)
- 操縦士は || モスクワに | 連れてこられた(同138)
- 私は || …自己肯定のすさまじさに | 圧倒されたのである(同117、太宰治)
- 花子は || 先生に | ほめられた
- 田が畑が道が || つぎつぎに | 水で | 覆われた(田中409)
- [||]手だの足だのを・虫に | さされた(同405) 賓語が2つ

これら賓語あるものは賓動文の受動形である、が賓語のないものは主動文の受動形。

- 次郎が || なぐられた(国研Ⅱ—165)
 - 日本語の調査が || 行われたという(同—40)
 - こういう運動が || 続けられている訳です(国研Ⅰ—120)
 - リンゴは || 食べられ+ちゃったよ(同上120) よ、終助詞
 - 天体望遠鏡は || 近年 | すぐれたものが：作られるようになった(三上76)
 - 米国でも || 麻薬が：禁ぜられている。…処動文の受動形
 - 悲しさが || 押し殺された(大野124)
 - 彼女は || 親に | 死なれて、困っている(同) 受動式と表語と2連述文
 - あいつは || 女房に | 逃げられて、独りで | 飯を | 炊いている(同) 2連述文
- 受身助動詞はあらゆる用言に添着するから、用例は無数。

受身は‘受損’表現に用いられるとは、内外文法家のよく言うことだが、こういう意味論は厳しく排撃されねばならない。

○はめられる、抜擢される、大統領に選ばれる、は受損だろうか。

受損・受益の語義にこだわってはいは、文の客観的構造形態を把握することはできない。

それから例えば郵便屋が玄関に小包を置いていったとする。‘おっ、小包がきた(届いた)’という。小包は能動能力がないから、実際は届けられたのだが、日本では受動表現は用いずに、㊤手紙がくる、小包がきたという。これは㊤友人がくる、お客がきた→主動文と意味上の相違があるが、形義論は構造形態に即して㊤類を㊤類と同様に主動文と見なす。○大根は || はっぱを | 棄てる。を構造に即して賓動文と見なすように。

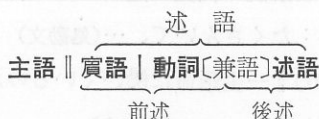
らる、られる、は表敬・可能義にもよく用いられるが、受動との区分は‘背景’を見て文義を考えれば、誰にもすぐ判別できるだろう。

○校長先生は || 東京に | 行かれた(大野125) …表敬…賓動文

○彼も || 英文が | 読める(よまれる)ようになった …可能…賓動文

複 述 文

(8) 通述構造



〔兼語〕は文面に現われない

前述語の賓語が、後述語の主語または賓語を兼ねるから、それを兼語という。兼語をバトンとして前述語と後述語が通結するから通述構造という。兼語あるによって、|| 符が2見(賓・主兼語のとき)、または| 符が2見(賓・賓兼語のとき)するのが、形態上の特徴。

〔 〕の内は兼語で、実際には文面に現われない。

○私は先日真鶴へ行きましたが、なかなかいい所でした(国研Ⅱ-91)

私は || 先日 | 真鶴へ | 行きましたが、〔真鶴は〕 || なかなか | いい所 | でした

前述語(賓動文)

後述語(賓系文)

‘真鶴’は前述語の賓語で、後述語の主語を兼ねる。|| 符2見。兼語‘真鶴’を中軸として前述と後述が通結する。

○僕は①昨晚アイスクリームを買ってきたが、②冷蔵庫に入れ忘れたので、③一晩でとけてしまった。(解説の便宜上、述語ごとに行を替え順位をつけた)

主語

- 僕は①アイス～を | 買ってきたが、 …賓動形
 ②[アイスを |]冷蔵庫に | 入れ忘れたので …賓動形…兼語は賓語
 ③[アイスは] || 一晩でとけてしまった。 …主動形…兼語は主語

②は兼語を賓語に受け成り立ち、③は兼語を主語にうけて成り立つ。3述語は緊密に連系し、どの一述語をも欠くことができない。欠けば文は不成立。

○雨は || 降る降る | 城ヶ島の磯に || 利休ねずみの雨が：降る(三上112)

(賓・主兼語)

前述は倒置の賓動文

後述は正形の処動文

述語

(9) 連述構造

主語 || 述語、述語、述語、… …

同一主語の下に前掲(1)～(8)構造の述語が2つ以上並列するもので、わかりやすい。‘連動’と言わぬのは述語は動詞に限らぬから。文は左から右へ一行に延びるだけなのだが、いま解説の便宜上述語ごとに行を替える。

- 東京は①勤勉な人が：たくさんいて、…(処動文)
 [その人々が] || 一生懸命に働いているのだが…(主動文) } 通述形
 町も：汚いし …(主表文)
 道も：汚い(三上131) …(主表文)

1通述文と2主表文から成る3連述の文

○吾輩は || 猫で | ある、名は：まだとない。(漱石) …2連述の文

第2述語は形式上完整の主動文だが[文義が完通しないので]独立文であり得ないのは、小主「名」は大主「吾輩」の属性だから。

○人は || 生まれて、苦しんで、そうしてと死ぬ() 3自動詞の連述文

○皆さんも①もうご存じのことと | 思いますが

| へAさんが || 博士に | になりました(国研Ⅱ-248) …賓系形の挿句

連述文で、全文の主語と異なる主語の述語を挿句という。いま‘皆さん’は全文の主語、‘Aさん’は‘皆さん’とは別人だから、この後述語を挿句という(へ符の後)。この文は、主語‘皆さん’の下に、前述と後述(挿句)とが、こういうふうになんで始めて文義の完通する一つの文となるのであり、挿句を切り離せば、

この連述文は不成立。——とは挿句もまた独立文ではあり得ないということ。

複述文は通述・連述以外は考えられないから、単文は $\left\{ \begin{array}{l} \text{単述 } 5 \\ \text{複述 } 2 \end{array} \right.$ 変式 2 } 計 9 型。

以上を要約すると：

1. 文は主語と述語の配合によって成立する
2. 主語と述語の配合形式——構造形態には次の類型がある

文型——基本構造

(1)主表 (2)主動		…	(3)賓系 (4)賓動 (5)処動	$\left. \begin{array}{l} \text{単述文} \\ 5 \text{ 文型} \\ 2 \text{ 変式} \\ \text{複述文} \\ 2 \text{ 文型} \end{array} \right\} \text{ 単文}$
主要語は 2			主要語は 3	
主語 $\left(\begin{array}{l} \text{表語 or} \\ \text{自動詞} \end{array} \right)$		…	主語 賓語 動詞 $\left(\begin{array}{l} \text{系詞} \\ \text{他動} \end{array} \right)$	
変式…助動詞添着…(6)使動式 (7)受動式				
(8)通述文			(9)連述文	$\left. \begin{array}{l} \text{複述文} \\ 2 \text{ 文型} \end{array} \right\}$
主語 前述〔兼語〕後述			主語 述語、述語、一、	

単文では、これ以外の文型は考えられないから、以上 7 構造 2 式が日本語の意味表現の基本構造の全部ということになる。

複 文

複数の単文が一つのまとまった意味を表わすように集まったものを複文という。すでに単文の構造形態が究明されたのだから、複文の文法は、単文と単文とのつながり方——接続方式にだけ残される。そのつながり方により複文は次の 6 型に分けられる。しかし問答文以外は、構造に混雑する部位があり、ぴったり 5 型に類別し難いものもある。

(1) 中接文

前文が用言の中止形なるにより、後文に接続する。

○空 || は高く、海は || 清い(「講座日本語の文法」2—180) … 2 主表文

○雨も 止み、風も 止んだ … 2 主動文

○ぼくは || 行く／が、君は || 待ってろ(田中388) … 2 主動文

(2) 接詞文

複数の単文が接続詞または副助詞により連続。

○雨が 〓 止め／ば、我々は 〓 出発する。…2 主動文 ／ば、副助

○東京は 〓 名古屋の東に | ある。①…賓動文

名古屋は 〓 京都の東に | ある。②…同上

故に 〓 東京は 〓 京都の東に | ある。③…同上（言語3—17）

①②③はそれぞれ独立の賓動文で、もと何等の連系もないのだが、いま‘故に’という接続詞が挿入されると、3 文の独立性は失われ、連系して一つの新しい意味のまとまりとなるから、3 文を併せて一つの接詞複文という。

ここで注意したいことは、文法は論理学とは無縁であるということ。①②③の順序と文義が合理的か否かは問わないのである。‘枯木に花が咲く’という文については、文法論は、それが‘処動構造’という表現形態であり、‘枯木に花が咲く’という意味を表わしているということにとどまる。枯木に花が咲く、という道理があるか、事実があるか、あり得るか、などは一切問わない、問うべきでない。論理学や哲学を導入することは文法論を歪めるという意味で有害である。三、四歳児は理屈なしにコトバを話す、言語とはそういうものでないだろうか。

○…対立を | すべて よくないもの として 〓 しりぞけて 〓 しまふ／ならば、

抗争に対する 〓 免疫の 〓 生じようが 〓 ない(品助113、外山) 無主文

○騎馬戦法の 〓 吸収の 〓 必要性を | 感じた 〓 だろう／し(無主賓動文)、戦だけでな
く 〓 平時には 〓 盛んな 〓 人材や文化の 〓 交流が：あった 〓 だろう …

(処動文)(品助179、朝日新聞)

○こんな 〓 首相の発言が 〓 次々に 〓 飛出さ 〓 なかった／ら(主動文)、「言論の自由」をめぐり 〓 議論も 〓 これほど 〓 過熱し 〓 ないです 〓 だろう(主動文)…(同上)

○それらの 〓 夏の日々 〓 一面に 〓 薄の生ひ 〓 茂った 〓 草原の中で 〓 お前が 〓 立った
まま 〓 熱心に 〓 絵を | 描いている／と、(賓動文) 私は 〓 いつも 〓 その傍らの
〓 一本の 〓 白樺の 〓 木蔭に・身を | 横たへて 〓 いたもの 〓 だった。(賓動文)…
(大野74)

(3) 承前文

後文が、前文またはその一部を承ける。

○京都には〓名所旧跡が：たくさんある。(処動文) これは〓それを書いた
 〓案内書で | ある。(賓系文) …‘それ’は名所旧跡をうける。

○つまらん(間投語)。要は〓俺が〓何人目かの〓男と | 言う+ただけだ。女が〓
 俺にとって〓そうだったと | 同様にだ。(品助112、石原) 2 賓系文

○そうだ。これは〓片づけて+おきましょうかな。…主動文

(間投詞)

(疑惑を残す終助詞)

瓜田=履ヲ容レズ | だ+からな。(品助113、石坂) 無主の賓系文。な、終助詞

○甲は〓その所有に係る〓下記の〓土地を・売渡代金幾々円で・乙に | 売渡し、
 乙は〓これを | 買受けた。乙は〓その代金を・下記に依り〓甲に | 支払う+
 ものとする。(大野76) …3 賓動文がつづく複文

○あれは〓なかなか〓いい芸者 | だよ(賓系文)。おれも〓半玉の時分に〓[その
 芸者に |]二、三度〓会ったことがある／が、(述述文)どこの土地へ連れて行
 っても〓[彼女は〓]恥ずかしくない〓芸者 | だ(賓系文)(品助120、志賀)
 だ、系詞

(4) 並列文

同類の主語または述語が並列または重複する。

○雨が〓ふる、風が〓吹く、とても外へは | 出られない(国語文法講座1—116)

○娘は〓家出して、息子は | ぐれてしまった(田中388)

(5) 問答文

問句と答句とは、当然併せて一つの複文となる。ただ問答は自称と対称の間に
 にしか成り立たぬから、無主形が非常に多い。

○「君はどこに | 行きますか」「学校に | 行きます」

○「さァ、行きましょうよ」「君は〓何でも〓『さァ行きましょう』 | だ」(品助
 113、横光) さァ、は相手を促す間投詞。だ、系詞

○「この〓店で | ございますか」「いや他所で | だ」(品助112、石原)

いや、否定を表わす間投詞。だ、系詞

○「あの人は 誰 | ですか」「隣の 〰 おじさん | です」（大野32）

述 語

主 語

○「全体 〰 何 | です、 〰 そのアフラ・ベーンというのは」（主・述を倒置して述語を強調）「英国の 〰 閨秀作家 | だ。 〰 十七世紀の 〰」（品助120、夏目）

最前にあるべき→（連体語） いま最後に倒置

○「あの本 〰 どうした」「読んじやった」（大野11） 主動文、後は動詞述語

○「行きましたか」「はい、行きました」（大野19）

○「行きませんでしたか」「いいえ、行きました」（同上）

○上3例の 〰 た、は完了または過去を表わす助動詞

（6）因果文

前因後果の順に文が配列する。

○大雪が 〰 ふった。新聞は 〰 まだ 〰 届かない。

大雪が降った、ために新聞が来ないと解釈されるから、因果文が成り立つ。しかしここには接続詞も重複も並列もなく、形態の上では、この2文を連系する客観的標識が何もない。だからただ2つの独立文が並んでいる一段の文章であるといっても、それを否認する理由が見つからない。これが文の限界である。これが文と文章の境界である。

○戦争は 〰 何のためにするもの | だか： 〰 わからない。後で 〰 景気でも 〰 好く

賓系文の賓語句

情動の表語

なれ／ばだが、大事な 〰 子は 〰 殺される（受動式） 物価は 〰 高くなる、（主表または主動文）こんな馬鹿気た 〰 ものは 〰 ない。（品助112、漱石）

以上が日本語文法の全貌です、これ以外に文法はありません。

文法は生成性であり循環性であるから、如何に形態が繁長で意味の複雑な日本語も単複15の文型と8種許りの付加語とを照合すれば、その文法は容易に解明されるであろう。

（1981—2—14 記於茫茫草堂）